

# 「明治女礼式浮世絵」の研究

筑波大学

図書館情報メディア研究科

2016年3月

山本祥子

## 目次

1. はじめに .....	4
2. 問題の背景 .....	4
3. 先行研究 .....	5
4. 研究の概要 .....	6
4.1. 研究目的 .....	6
4.2. 研究対象 .....	6
4.3. 研究方法 .....	9
5. 調査結果 .....	10
5.1. 明治女礼式浮世絵の出版状況 .....	10
5.1.1. 所蔵状況の調査結果 .....	10
5.1.2. 出版年別の資料点数 .....	13
5.1.3. 出版者別の資料点数 .....	14
5.1.4. 出版地別の資料点数 .....	15
5.2. 絵双六資料群調査結果 .....	15
5.2.1. 調査対象資料の書誌 .....	15
5.2.2. 構成図 .....	20
5.2.3. 各大カテゴリの出現数 .....	33
5.2.4. 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数 .....	33
5.2.5. 各小カテゴリの出現数 .....	34
5.2.6. 上がり、ふり出しにおける各カテゴリの出現数 .....	35
5.3. 画帖資料群調査結果 .....	36
5.3.1. 調査対象資料の書誌 .....	36
5.3.2. 各大カテゴリの出現数 .....	41
5.3.3. 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数 .....	41
5.3.4. 各小カテゴリの出現数 .....	42
5.3.5. 本文の分析 .....	43
5.3.6. 本文と図版の比較 .....	44
5.4. 続絵資料群調査結果 .....	63
5.4.1. 調査対象資料の書誌 .....	63
5.4.2. 各大カテゴリの出現数 .....	73
5.4.3. 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数 .....	73
5.4.4. 各小カテゴリの出現数 .....	74
5.4.5. 本文の分析 .....	75

6. 考察 .....	77
6.1. 資料形態別の特徴 .....	77
6.2. 「小学女礼式第一」の影響 .....	77
6.3. 高等女学校における教育内容の影響 .....	78
7. 終わりに .....	78

謝辞

文献リスト

## 1. はじめに

1872年の学制公布後、小笠原清務らの積極的活動によって女子のための礼法教育の必要性が提唱されるようになり、女礼式は学校教育・家庭教育の場を通して普及した。

当時の教育熱を反映し、教科書から遊び絵に至るまで、教材として多様な形態のメディアが出版されており、その一部は現在にも伝えられている。研究方法として文献調査を選択することの多い歴史研究において、こうした出版物は非常に有用な資料であり、その収集と調査は研究活動に欠かせないものである。しかし、後述のように、これまでの近代礼法史研究で扱われているものはテキスト主体の資料が主であり、ビジュアル主体の出版物を広く扱った研究はない。

若年層の女子に礼儀作法を教えるという目的に照らせば、豊富な情報量を親しみやすく伝えることのできるビジュアル主体の出版メディアが女礼式の普及において果たした役割は看過できないものであり、近代日本における礼法の普及過程を明らかにするためにはこうしたビジュアル主体のメディアを含むあらゆる形態の資料を対象とした基礎研究が不可欠である。そこで、本研究では特に明治期に出版され、女礼式をテーマとする浮世絵資料を収集し、収集した資料について書誌学的視点から調査を行う。特に、それぞれの資料で描かれた主題に着目し、本文を翻刻して各図版を主題別に分類・整理する。

明治期は多くの錦絵が意欲的に出版された時代である<sup>1</sup>と同時に、西洋からリトグラフ、写真等の新しい技術が輸入された時代であり、女礼式をテーマとする出版物においても新技術を用いた資料が散見されている。本研究ではこうした多色摺木版以外の方法で印刷されたビジュアル主体メディアも補足的に収集し、合わせて研究対象とする。

以上の手法で主題分析を行い、メディアの形態による特徴を明らかにすることで、今後の同領域の研究への基礎的資料を提供することを目指す。

## 2. 問題の背景

日本において、全国的な礼法教育が開始されたのは、明治維新後、新政府によって学校制度が整えられた後のことであった。1873年の「小学心得」の刊行に見られるように、礼法教育は、はじめは児童生徒の学校生活に焦点を当てたものとして始まったが、1879年に「教学聖旨」が出された後は、小笠原清務らの尽力によって女子のための礼法教育の必要性も注目されるようになり、明治中期以降は、小学校教育・女学校教育においても礼法教育が取り入れられるようになった。

前述の小笠原清務をはじめ、近代礼法の普及に尽力した礼法家は江戸時代までに武家作法の大家として知られていた人々であった。江口、住田は論文「礼法教育の研究（第1報）：小学校における礼法の成立過程」において近代化を目指していた新政府が旧時代の流れをくむ礼法を学校教育に取り入れた理由として(1)「流派礼法諸家による在野の礼法教育の事

---

<sup>1</sup>岩切信一郎. 明治版画史. 吉川弘文館, 2009, 378p.

実があり、それを正式に学校教育に取り入れることへの要望が存在していたこと」(2)「文部省が学校という新しい社会生活の場に子供を秩序的に対応させる必要を認めたこと」(3)「明治12年に示された「教学聖旨」の影響」の3点を挙げ、「以上三つの理由から、礼法教育が小学校の修身科の一部として開始されるようになった」と述べている<sup>2</sup>。

こうして礼法教育の需要が高まるなかで、「小学女礼式第一」「小学作法書」などの礼法教育のための教科書も出版され、これ以降、多くの一般向け礼法書が登場した。特に、「小学女礼式第一」は「近代礼法史上、日本人が礼儀作法についてまとめた最初の出版物」<sup>3</sup>であると言われており、「小学女礼式訓戒」「増補図解小学女礼式」等の図入り・振り仮名つきの二次的出版物も相次いで出版されるなど、後の女礼式関連出版物に強い影響を与えたと考えられる。

一方で、明治期には、教育的な性格を持った錦絵や遊び絵などのビジュアル主体の出版物も多数出版されており、主に家庭教育の場において学ぶべき事柄を少年少女に視覚的にわかりやすく伝えた<sup>4</sup>。これは女礼式教育に関しても同様であると考えられ、多数の関連資料が現在に伝えられている。しかし、前章でも述べたように、教科書や礼法書などのテキスト主体メディアに比べこうしたビジュアル主体メディアについての研究は蓄積がなく、歴史研究のなかで取り上げられることは少ない。原因としては、これらの資料が散逸しやすい性質を持っていたために資料の収集・調査が困難であったこと、また、特に遊び絵等の遊具的な性格を有する資料は資料価値自体が軽視される傾向があったこと<sup>5</sup>が挙げられる。

### 3. 先行研究

明治期の女礼式教育に関連する先行研究としては、礼法史の視点から近代礼法の成立過程を明らかにすることを目指したもの(薄井)<sup>678</sup>、図書館に関するマナーの受容過程という特定の関心を持って当時の礼法教育を調査したもの(呑海、綿抜)<sup>91011</sup>、教育史の視点

---

<sup>2</sup>江口敦子、住田昌二. 礼法教育の研究(第1報): 小学校における礼法の成立過程. 日本家庭科教育学会誌. 1983, 26(2), p.13-17.

<sup>3</sup>陶智子. 「小学女礼式」について. 富山短期大学紀要. vol.42, 2007, p.1-10.

<sup>4</sup>加藤康子. 幕末・明治の絵双六-研究の意義と方法. 梅花女子大学文学部紀要児童文学編. vol.31,1997, p.1-38.

<sup>5</sup>山本正勝. 絵すごろく: 生い立ちと魅力. 芸艸堂, 2004, 288p.

<sup>6</sup>薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(1). 北海道医療大学看護福祉学部紀要.vol. 10, 2003, p.57-65.

<sup>7</sup>薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(2). 北海道医療大学看護福祉学部紀要. vol.11, 2004, p.51-58.

<sup>8</sup>薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(3). 北海道医療大学看護福祉学部紀要. vol.12, 2005, p.1-9.

<sup>9</sup>呑海沙織. 近代礼法書にみる図書館のマナー. 図書館情報メディア研究第9巻1号, 2011. p77-88,

から当時の礼法教育の変遷を分析したもの（江口、住田）<sup>12</sup>、特定の礼法関連資料について資料研究を行ったもの（陶）<sup>13</sup>などがあり、多様な研究領域を背景に持つ研究者がそれぞれの関心を持って研究成果を積み重ねている。しかし、いずれの研究も当時の教科書や礼法書のようなテキスト主体のメディアを分析対象としており、地本問屋や絵草子屋で扱われていたような錦絵や遊び絵は取りあげられていない。

一方、女礼式を伝えたビジュアル主体のメディアを扱った研究は少ないが、多数の関連資料を所蔵する筑波大学が 2013 年に調査報告論文集を刊行している。同論文集では井上、小出らが論文を掲載し、各所蔵資料について美術史・風俗史の視点から考察を加えているが、個別的な研究に留まっており、主題となっている女礼式に関する言及は少ない。<sup>14</sup>

以上のように、一定数の資料を収集し、それらの資料で何がどのように描かれていたのかについてひとつの資料群として全体の傾向を明らかにした研究は管見の限り見当たらない。

## 4. 研究の概要

### 4.1. 研究目的

本研究の目的は、明治期に女子に礼法を伝えたビジュアル主体のメディアのうち、主要な役割を果たしていたと考えられる浮世絵資料群（註：以下では同資料群を明治女礼式浮世絵と定義する。同語は前項で紹介した先行研究が掲載されている「筑波大学附属図書館所蔵明治期女禮式浮世絵調査報告論文集」でも用いられている語であるが、本研究では多様な資料形態・印刷方法による図版を含むものとして扱う）を収集して各資料の書誌事項の調査および本文の翻刻を行うとともに、各資料に収録された図版を主題別、資料形態別に分類・整理し、テキストメディアとの比較からその特徴を明らかにすることである。

### 4.2. 研究対象

綿抜研究室所蔵の絵双六 10 種 13 点、画帖 9 種 14 点、筑波大学附属図書館所蔵の絵双六

---

<sup>10</sup> 呑海沙織, 綿抜豊昭. 近代における図書館に関するマナーの受容：礼法教育からのアプローチ. 日本図書館情報学会誌 58 巻 2 号, 2012. p.69-82,

<sup>11</sup> 呑海沙織. 近代礼法書における図書館マナーと甫守謹吾. 情報学第 10 巻 2 号, p.1-11, 2013

<sup>12</sup> 江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 1 報): 小学校における礼法の成立過程. 日本家庭科教育学会誌. 1983, 26(2), p.13-17. 江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 2 報): 小学校用礼法教科書の内容の推移. 日本家庭科教育学会誌. 1983, 26(2), p.18-22. 江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 3 報): 婦人向け教養書における礼法項目の推移. 日本家庭科教育学会誌. 1985, 28(1), p.1-6.

<sup>13</sup> 陶智子. 「小学女礼式」について. 富山短期大学紀要. vol.42, 2007, p.1-10.

<sup>14</sup> 井上素子, 楊周延《女禮式図》に見る近代女子教育観. 筑波大学附属図書館所蔵明治期女禮式浮世絵調査報告論文集. 2013, p.7-15.

小出真理子. 明治女禮式浮世絵における服飾表現について. 筑波大学附属図書館所蔵明治期女禮式浮世絵調査報告論文集. 2013, p.17-25.

1種1点、続絵13種13点の計33種39点、国立国会図書館所蔵の続絵7種7点を調査対象とする。各資料は3~22点の複数の図版から構成されているため、主題分析の対象となる個別の図版は、絵双六で162種、画帖で106種、続絵で63種となり、計331種である。

研究対象資料の一覧は以下の表を参照されたい。

絵双六				
タイトル	出版者	出版日	印刷方法	所蔵
女禮式教育壽語録	横山園松	明治21年10月	多色摺木版	筑波大学附属図書館
教育女禮式双六	福田熊次郎	明治26年12月	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式壽五六	森本順三郎	明治27年12月	多色摺木版	綿抜研究室
教育女禮壽語六	牧金之助	明治28年10月	多色摺木版	綿抜研究室
教育女禮壽語六	牧金之助	明治28年10月	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式壽語六	松野米次郎	明治28年11月	多色摺木版	綿抜研究室
教草女禮壽語六	牧金之助	明治30年11月	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式壽五六	牧金之助	明治33年9月	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式双六	樋口銀太郎	明治33年12月	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式優美雙六	不明	明治34年9月	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式優美雙六	不明	明治34年9月	多色摺木版	綿抜研究室
教育女禮式双六	不明	不明	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式壽語録	不明	不明	多色摺木版	綿抜研究室
女禮式壽語録	不明	不明	多色摺木版	綿抜研究室
				計11種14点

画帖				
タイトル	出版者	出版日	印刷方法	所蔵
石版女礼式	渡邊忠久	明治24年8月 22日	石版	綿抜研究室
不明	勝山繁太郎	明治26年10月 24日	石版	綿抜研究室
美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治26年3月3 日	多色刷木版	綿抜研究室
美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治26年3月3 日	多色刷木版	綿抜研究室
美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治26年3月3 日	多色刷木版	綿抜研究室



美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治 26 年 3 月 3 日	多色刷木版	綿拔研究室
女禮式大全画帖完	松野米次郎	明治 30 年 12 月 10 日	多色刷木版	綿拔研究室
女禮式大全画帖完	松野米次郎	明治 30 年 12 月 10 日	多色刷木版	綿拔研究室
教育女禮式	綱島亀吉	明治 34 年 12 月 15 日	多色刷木版	綿拔研究室
教育女禮式	綱島亀吉	明治 39 年 3 月 3 日	多色刷木版	綿拔研究室
美術女禮式繪圖 全	福田熊次郎	明治〔〕年 12 月〔〕日	多色刷木版	綿拔研究室
教育女禮式	不明	不明	石版	綿拔研究室
教育女禮式	不明	不明	石版	綿拔研究室
教育女禮式	不明	不明	石版	綿拔研究室
計 9 種 14 点				

続繪				
タイトル	出版者	出版日	印刷方法	所蔵
女礼式歌合	武川清吉	不明	多色摺木版	筑波大学附属図書館
女禮式給仕之圖	武川卯之吉	明治 23 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
婦女禮式圖會	石島八重	明治 22 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
教育女禮式之圖	小林鍊次郎	明治 20 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
女禮式之圖	福田熊次郎	明治 22 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
女禮式之圖	永松作五郎	明治 23 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
婦人諸禮式の圖： 屠蘇	勝木吉勝	明治 29 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
婦人諸禮式之圖： 生花	勝木吉勝	明治 29 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
婦人諸禮式乃圖： 婚禮	勝木吉勝	明治 33 年	多色摺木版	筑波大学附属図書館
幼女禮式教育之圖	坂井金三郎	不明	多色摺木版	筑波大学附属図書館
女禮式之圖	横山園松	不明	多色摺木版	筑波大学附属図書館
女禮式略圖：婚 禮	武川清吉	不明	多色摺木版	筑波大学附属図書館



女禮式略圖	武川清吉	不明	多色摺木版	筑波大学附属図書館
女禮式給仕之圖	武川卯之吉	明治 23 年	多色摺木版	国立国会図書館
女礼式之図	佐々木豊吉	明治 20 年	多色摺木版	国立国会図書館
婦女禮式圖會	綱島亀吉	明治 23 年	多色摺木版	国立国会図書館
女礼式の内 茶の湯の図	辻岡文助	明治 26 年	多色摺木版	国立国会図書館
女礼式 四季之活花	武川清吉	明治 26 年	多色摺木版	国立国会図書館
女礼式略図 婚礼	武川清吉	明治 27 年	多色摺木版	国立国会図書館
略図女礼式	辻岡文助	明治 28 年	多色摺木版	国立国会図書館
女礼式書画之図	武川卯之吉	不明	多色摺木版	国立国会図書館
				計 21 種 22 点

#### 4.3. 研究方法

主として文献調査と資料研究を行う。文献調査では、当時の教育関連法令や高等女学校教育に関する先行研究を調査して女礼式浮世絵の出版背景を把握することを目指す。資料研究では、研究対象資料の書誌事項を記述し、本文を翻刻するとともに、資料に含まれる図版を主題別に分類・整理する。書誌事項の調査項目としてはタイトル（旧字、新字、読み）、画工、出版者、出版地、出版日、資料形態、印刷方法、法量、所蔵、本文の翻刻、画像の位置を採用する。

さらに、本研究では資料保存と集計作業の効率化を目的として、研究対象資料のデジタル化・データベース化を行う。具体的には、研究対象とした資料群をスキャナ、またはデジタルカメラで AD 変換し、Microsoft Office Excel 2013 のデータベース機能を使用して書誌事項と分類項目、画像データをそれぞれデータベースに格納して整理する。

デジタル化の方法としては、資料にかかる負担を少なくし、かつ高精度のデジタル画像を得るために、資料の法量や状態等を鑑みて絵双六資料群ではデジタルカメラによる撮影、画帖資料群ではスキャナによる読み込みを行った。続絵資料群は全て筑波大学附属図書館と国立国会図書館所蔵の資料を用いるため、各館がそれぞれオンライン公開している画像データを利用規約の範囲で使用した。

データベースには、主キーとなる画像番号の他、書誌事項の調査で明らかにした題名（旧字体）、題名（新字体）、題名（読み）、画工、出版者、出版地、出版日、資料形態、印刷方法、法量、所蔵、本文の翻刻、さらに大中小の主題分類を格納した。画像番号は資料形態別の資料群、各資料、各図版の 3 段階でそれぞれ記号を付与し、それらをハイフンで繋げた。具体的には、絵双六資料群を A、画帖資料群を B、続絵資料群を C とし、さらに各資料群を出版年順に並べてアルファベットを付与、各図版に 1~22 の通し番号を振った。例え

ば、絵双六資料群で最も出版年の古い「女禮式教育壽語録」の 1 コマ目の図版の画像番号は A-A-1 となる。

図版の分類には、後に比較を行うため、「小学女礼式第一」の項目を参照し、「小学女礼式第一」が扱っていないテーマについては別途分類項目を置いた。分類する際の基準としては、各画像に記載された図版名等のテキスト情報を用いた。特に絵双六資料群には移動先を指示するために各図版にコマ名が記載されており、これは図版のテーマを端的に表したものであると考えられる。画帖資料群、続絵資料群では、一部の資料でテキスト情報のない図版が見られたため、各図版で描かれている所作や調度から個別に主題を判断した。

分類は、小カテゴリ、中カテゴリ、大カテゴリの 3 段階で行った。小カテゴリでは図版名の表記の揺れを統一し、同じ所作を扱ったものをまとめて分類した。中カテゴリでは、「小学女礼式第一」の大項目を参考に、小カテゴリを動作の目的ごとに大別した。大カテゴリは、中カテゴリをさらにまとめ、女礼式、趣味・教養、家事・生業、祝い事、道德の 5 つに分けた。いずれの分類にも当てはまらない図版は「その他」に振り分けた。

最後に集計を行い、調査対象とした明治女礼式浮世絵のなかでよく取り上げられる主題について資料形態別に調査するとともに、資料ごとの特徴を得るために、(1)各大カテゴリの出現数(2)大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数(3)各小カテゴリの出現数の 3 つの視点から集計結果をまとめた。

## 5. 調査結果

### 5.1. 明治女礼式浮世絵の出版状況

#### 5.1.1. 所蔵状況の調査結果

明治女礼式浮世絵の出版状況を推し量るために現存する資料点数を把握することを目指して、日本国内の図書館、博物館、美術館、文書館を対象に所蔵調査を行い、資料形態別の目録を作成した。先に述べたように、浮世絵のようなビジュアル主体の資料は図書資料に比べ散逸しやすく、調査のための有用なレファレンスツールも少ないため網羅的な所蔵調査は困難である。今回の調査では日本国内のオンラインデータベースと各館の OPAC を用いて所蔵調査を行ったため、書誌をオンライン公開していない資料、古書店の在庫にある資料、個人蔵の資料、海外に流出した資料等は追跡できなかった。

国立国会図書館デジタルコレクション、NDL-OPAC、NACSIS-WebCat 等のオンラインデータベースを用いて「女礼」「婦人」「礼式」「諸礼」等のキーワードで検索を行った結果、筑波大学附属図書館に続絵 14 点、一枚物 5 点、絵双六 1 点の計 20 点、国立国会図書館に絵双六 3 点、続絵 8 点の計 11 点、東京学芸大学附属図書館に絵双六 2 点、静岡県立中央図書館に続絵 13 点の所蔵を確認した。なお、これらの資料点数は他館との重複資料を含めたものである。その他、都立中央図書館に絵双六 1 点、江戸東京博物館に絵双六 1 点、国立民族学博物館に画帖 1 点の所蔵があったが、いずれも大正期以降の資料であったため対象

から除外した。また、図版の主題が女礼式に関連していると思われるものであっても、タイトルに「女礼（禮）」「礼（禮）式」「諸礼」等のキーワードが含まれていない資料は女礼式とは別の視点から主題を扱ったものであると考え、除外した。ただし、タイトル不明の資料、出版年不明の資料については個別に判断した。

以下に所蔵調査で明らかになった明治女礼式浮世絵関連資料の一覧を掲載する。なお、表中で所蔵が「個人蔵」となっている資料は全て綿抜研究室綿抜豊昭教授の所蔵する資料である。

絵双六（木版）			
女礼式教育寿語録	横山園松	明治 21 年	国立国会図書館
女礼式教育寿語録	横山園松	明治 21 年	国立国会図書館
女礼式教育寿語録	横山園松	明治 21 年	筑波大学附属図書館
女禮式十二ヶ月壽語録	横山園松	明治 25 年	東京学芸大学
教育女禮式双六	福田熊次郎	明治 26 年 12 月	個人蔵
女禮式壽五六	森本順三郎	明治 27 年 12 月	個人蔵
教育女禮壽語六	牧金之助	明治 28 年 10 月	個人蔵
女禮式壽語六	松野米次郎	明治 28 年 11 月	個人蔵
日本女禮式雙六	松野米次郎	明治 30 年	東京学芸大学
教草女禮壽語六	牧金之助	明治 30 年 11 月	個人蔵
女禮式壽五六	牧金之助	明治 33 年 9 月	個人蔵
女禮式双六	樋口銀太郎	明治 33 年 12 月	個人蔵
女禮式優美雙六	不明	明治 34 年 9 月	個人蔵
教育女礼式寿語六	木村豊吉	明治 34 年	国立国会図書館
教育女禮式双六	不明	不明	個人蔵
女禮式壽語録	不明	不明	個人蔵
美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治 26 年 3 月	個人蔵
美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治 26 年 3 月	個人蔵
美術婦女禮儀画譜 全	福田熊次郎	明治 26 年 3 月	個人蔵
美術婦女禮儀画譜 全	不明	不明	個人蔵
女禮式大全面帖完	松野米次郎	明治 30 年 12 月	個人蔵
女禮式大全面帖完	松野米次郎	明治 30 年 12 月	個人蔵
美術女禮式繪圖 全	福田熊次郎	不明	個人蔵
教育女禮式	不明	不明	個人蔵
不明	不明	不明	個人蔵

画帖（石版）			
石版女礼式	渡邊忠久	明治 24 年 8 月	個人蔵
不明	勝山繁太郎	明治 26 年 10 月	個人蔵
教育女禮式	綱島亀吉	明治 34 年 12 月	個人蔵
教育女禮式	綱島亀吉	明治 39 年 2 月	個人蔵
続絵（木版）			
女礼式之図	佐々木豊吉	明治 20 年	国立国会図書館
教育女禮式之圖	小林鏡次郎	明治 21 年	筑波大学附属図書館
女礼式ノ内茶之湯ノ図	横山園松	明治 21 年	静岡県立中央図書館
婦女禮式圖會	石島八重	明治 22 年	筑波大学附属図書館
女禮式之圖	福田熊次郎	明治 22 年	筑波大学附属図書館
女禮式之圖	永松作五郎	明治 23 年	筑波大学附属図書館
女禮式給仕之圖	武川卯之吉	明治 23 年	筑波大学附属図書館
女禮式給仕之圖	武川卯之吉	明治 23 年	国立国会図書館
女禮式給仕之圖	武川卯之吉	明治 23 年	静岡県立中央図書館
婦女礼式図解	綱島亀吉	明治 23 年	国立国会図書館
倭風俗女礼式	森本順三郎	明治 25 年 4 月 30 日	静岡県立中央図書館
女礼式略図給仕	武川卯之助	明治 25 年	静岡県立中央図書館
女礼式の内茶の湯の図	辻岡文助	明治 26 年	国立国会図書館
女礼式 四季之活花	武川清吉	明治 26 年	国立国会図書館
女礼式内婚礼之図	福田熊次郎	明治 26 年	静岡県立中央図書館
女禮式略圖：婚禮	武川清吉	明治 27 年	国立国会図書館
女禮式略圖：婚禮	武川清吉	不明	静岡県立中央図書館
女禮式略圖：婚禮	武川清吉	不明	静岡県立中央図書館
略図女礼式	辻岡文助	明治 27 年	国立国会図書館
女礼式操の対幅	長谷川園吉	明治 28 年 5 月	静岡県立中央図書館
女禮式略圖：婚禮	武川清吉	不明	筑波大学附属図書館
幼女禮式教育之圖	坂井金三郎	不明	筑波大学附属図書館
小兒教育女禮式	小林新吉	不明	筑波大学附属図書館
女禮式略圖	武川[清]吉	不明	筑波大学附属図書館
女礼式歌合	武川清吉	不明	筑波大学附属図書館
女礼式歌合	武川清吉	不明	静岡県立中央図書館
女禮式之圖	横山園松	不明	筑波大学附属図書館
女禮式之圖	横山園松	不明	静岡県立中央図書館

女礼式書画之図	武川卯之吉	不明	国立国会図書館
一枚物（木版）			
小學女禮式圖解	大倉孫兵衛	不明	筑波大学附属図書館
女禮式繪解	不明	不明	筑波大学附属図書館
一枚物（石版）			
女禮式	渡邊忠久	明治 24 年	筑波大学附属図書館
女禮式教訓畫	渡邊忠久	明治 25 年	筑波大学附属図書館
今様女禮集：祝賀の樂	太田吉次	明治 29 年	筑波大学附属図書館

### 5.1.2. 出版年別の資料点数

出版年別の資料点数の詳細については、次頁のグラフ 1 を参照されたい。所蔵調査によって明らかになった明治女礼式浮世絵の出版年は、明治 20 年代に集中していることがわかった。

この結果を、以下の明治期における女礼式教育普及過程の略年表と照らすと、明治女礼式浮世絵は、小笠原清務の礼法教育に関する建議によって学校教育に礼法教育が取り入れられ、「小学女礼式第一」やその解説書をはじめとするテキスト主体の出版物が流通し始めた後に登場したと考えられる。

明治 5 年	学制公布
明治 6 年	「小学生心得」刊行
明治 12 年	教学聖旨公布
明治 13 年	教育令改正
明治 14 年	礼法教育に関する小笠原清務の建議 「小学校教則綱領」制定 「小学女礼式第一」刊行
明治 16 年	「小学作法書」刊行

また、江口・住田は近代の小学校における礼法教育について、特に礼法教科書の変遷に着目して下記のような区分を行っている<sup>15</sup>が、明治女礼式浮世絵の出版時期はこの「検定教科書Ⅰ期」から「検定教科書Ⅱ期」にあたる。

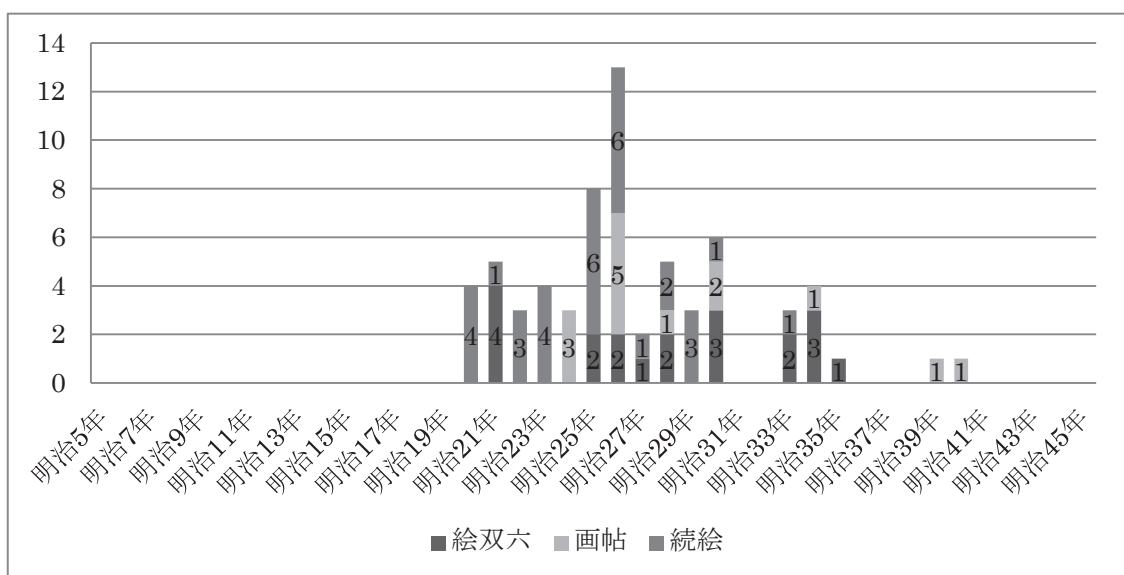
これらの時期は教育勅語に基づく検定標準が示され、実際に使用され始めた時期である。この後、礼法教科書は国定化され、学校教育における礼法教育の内容が文部省によってより具体的に示されるようになる。江口・住田による時代区分の詳細は、以下の表を参照さ

<sup>15</sup>江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 1 報): 小学校における礼法の成立過程. 日本家庭科教育学会誌. 1983, 26(2), p.13-17.

りたい。

以上から、明治女礼式浮世絵は礼法諸家によって在野の教育活動が開始されてから女礼式教育が国策化するまでの過渡期に流通していたものであると考えられる。

自由教科書Ⅰ期	明治5年～13年
自由教科書Ⅱ期	明治14年～15年
自由教科書Ⅲ期	明治16年～19年
検定教科書Ⅰ期	明治19年～27年
検定教科書Ⅱ期	明治27年～36年
国定教科書期	明治36年～昭和20年



グラフ1：出版年別の資料点数

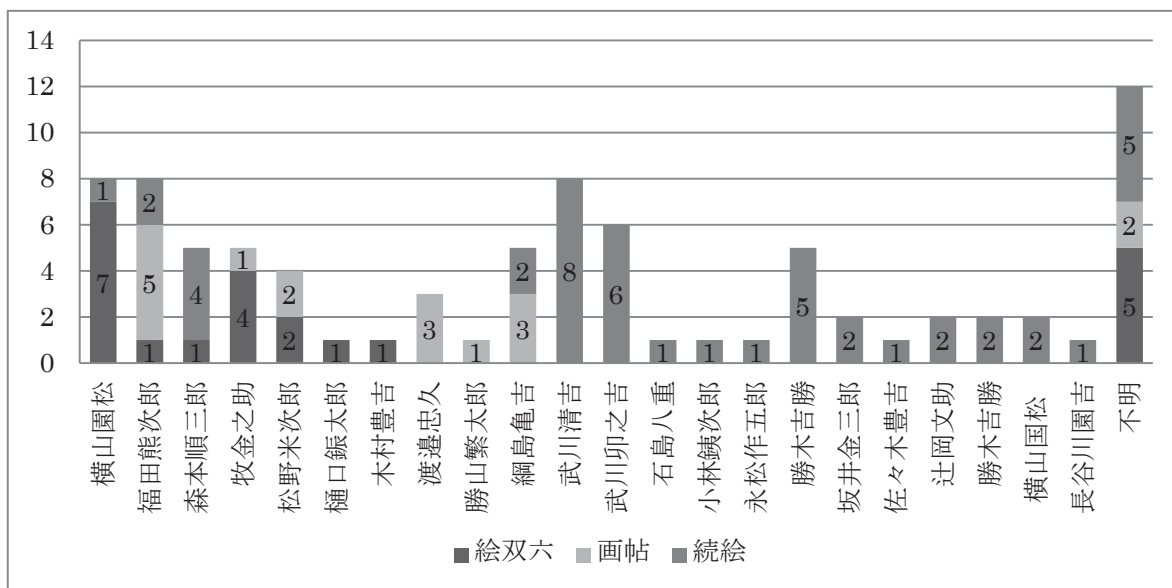
### 5.1.3. 出版者別の資料点数

出版者別の資料点数では、横山園松、福田熊次郎、武川清吉が最も多く、次いで武川卯之吉、さらに森本順三郎、牧金之助、綱島亀吉、勝木吉勝が続いた。詳細はグラフ2を参照されたい。

横山、武川は二代にわたって女礼式浮世絵の出版に携わっており、流通に寄与していたことが伺える。また、調査の結果、横山園松、福田熊次郎、森本順三郎、牧金之助、松野米次郎、綱島亀吉らは絵双六と画帖、画帖と続絵など、複数の形態の資料の出版を手掛けていたことがわかった。今回追跡できなかった資料や現存していない資料の存在を考慮すると、他の出版者でもこうした複数の形態にわたる資料の出版が行われていた可能性も考



えられる。



グラフ 2：出版者別の資料点数

#### 5.1.4. 出版地別の資料点数

出版地別の資料点数を見ると、所蔵調査によって発見された資料は出版地不明の資料を除いてすべて東京で出版されていた。役者絵をはじめとする上方絵は明治期にも流通していたが、明治女礼式浮世絵は京都・大阪ではなく東京を中心に出版されていたと推定される。

### 5.2. 絵双六資料群調査結果

以下の項では、絵双六資料群の調査結果について述べる。

#### 5.2.1. 調査対象資料の書誌

資料の基本情報を得るために、書誌事項の調査を行った。調査対象とした絵双六の書誌事項は、以下の表を参照されたい。

#### A) 資料 A-A

題名 (旧字)	女禮式教育壽語録
題名 (新字)	女礼式教育双六
題名 (読み)	じょれいしききょういくすごろく
画工	不明
出版者	横山園松
出版地	東京



出版日	明治 21 年 10 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	56cm
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

B) 資料 A-B

題名 (旧字)	教育女禮式双六
題名 (新字)	教育女礼式双六
題名 (読み)	きょういくじょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	福田熊次郎
出版地	東京
出版日	明治 26 年 12 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	72.5cm×48.5cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

C) 資料 A-C

題名 (旧字)	女禮式壽五六
題名 (新字)	女礼式双六
題名 (読み)	じょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	森本順三郎
出版地	東京
出版日	明治 27 年 12 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	72.7cm×48.0cm

所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

D) 資料 A-D

題名 (旧字)	教育女禮壽語六
題名 (新字)	教育女礼式双六
題名 (読み)	きょういくじょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	牧金之助
出版地	東京
出版日	明治 28 年 10 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	71.7cm×49.0cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	2 枚所蔵有

E) 資料 A-E

題名 (旧字)	女禮式壽語六
題名 (新字)	女礼式双六
題名 (読み)	じょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	松野米次郎
出版地	東京
出版日	明治 28 年 11 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	74.4cm×49.5cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

## F) 資料 A-F

題名 (旧字)	教草女禮壽語六
題名 (新字)	教草女礼双六
題名 (読み)	きょうそうじょれいすごろく
画工	不明
出版者	牧金之助
出版地	東京
出版日	明治 30 年 11 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	73.5cm×50.0cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

## G) 資料 A-G

題名 (旧字)	女禮式壽五六
題名 (新字)	女礼式双六
題名 (読み)	じょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	牧金之助
出版地	東京
出版日	明治 33 年 9 月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	54.5cm×48cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

## H) 資料 A-H

題名 (旧字)	女禮式双六
題名 (新字)	女礼式双六

題名（読み）	じょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	樋口銀太郎
出版地	東京
出版日	明治33年12月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	73.5cm×47cm
所蔵	個人蔵
OL公開	無
備考	

D) 資料 A-I

題名（旧字）	女禮式優美雙六
題名（新字）	女礼式優美双六
題名（読み）	じょれいしきゆうびすごろく
画工	不明
出版者	不明
出版地	東京
出版日	明治34年9月
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	71.5cm×49.5cm
所蔵	個人蔵
OL公開	無
備考	2枚所蔵有

J) 資料 A-J

題名（旧字）	教育女禮式双六
題名（新字）	教育女礼式双六
題名（読み）	きょういくじょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	不明
出版地	不明

出版日	不明
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	110.4cm×50cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

#### K) 資料 A-K

題名 (旧字)	女禮式壽語祿
題名 (新字)	女礼式双六
題名 (読み)	じょれいしきすごろく
画工	不明
出版者	不明
出版地	不明
出版日	不明
資料形態	絵双六
印刷方法	多色摺木版
法量	72.5cm×72cm
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	2 枚所蔵有

#### 5.2.2. 構成図

次に、岩城の手法<sup>16</sup>を参考に、各絵双六の構成図を作成した。なお、旧仮名遣い、旧字体は基本的に資料の記載に従うものとし、変体仮名については現在使われているものに修正した。

絵双六は廻り双六と飛び双六に大別されるが、研究対象とした 11 点はすべて飛び双六であった。現代では巡り双六の方が一般的であるが、江戸期には道中双六を除くほとんどの絵双六が飛び双六であり、明治期にも少なからず出版されていた。巡り双六とは異なり、飛び双六では単純にさいころの目の数だけコマを進めるのではなく、各コマに書かれた移動先の指示に従って次のコマに飛ぶことで上がりを目指す。着実に上がりに向かって前進していく巡り双六に比べ、飛び双六にはいつ上がることができるのか予測が難しい面白さ

<sup>16</sup>岩城紀子. 出世双六の変化—幕末から明治へ—. 風俗. Vol. 32, vol. 3, p.62-87.

があり、コマの配置の自由度も高いという特徴がある。

構成図中の数字①から⑥までの数字は、サイコロの目についての指示を表す。例えば、資料 B のふりだしのコマでは、サイコロを振って出た目が①ならば御香のコマに、②ならば茶の湯に、③ならば三曲にというように移動先が指示されている。ふりだし以外のコマでは全ての目に移動先の指示がついているわけではなく、指示のない目が出た場合にはそのままそのコマに留まることになる。移動先の指示がついている目の数は資料によってばらつきがあったが、1つのコマあたりに3つの指示がついているものが最も多かった。

調査対象資料のコマの配置は、右下にふりだしが置かれ、左上に上がりが置かれているものが多いものの、資料によってばらつきがあった。絵双六ひとつあたりのコマ数は11コマから22コマであり、これも資料によって差が大きかったが、全体で見ると14コマのものが最も多かった。

次頁より本研究で作成した構成図を記載する。

酒進め様 ①しょうしふすま ②ひきさかな ③上り	上り		顔洗ふ時の心得 ①ろうそくしんき ②上り ③さけすすめ	掛物扱い様 ②はかまきせ ③ようしつかい ④おうきしんせ ⑤ちやきう
客を出向ふ時 ④ちやきう ⑤上り ⑥かけものあつかい				
引肴進め様 ①おうきしんせ ②しょうしふすま ④さけすすめ	障子襖の開閉 ③かおあらいよう ④上り ⑤ものうけよう	茶喫し様 ①たはこほん ④上り ⑥ほんぜん	煙草盆進め様 ③ものうけ ④ちやすすめ ⑤かけもの ⑥ようしつかい	
扇進ぜ様 ①たはこほん ②ものうけ ③さけすすめ ④かおあらふ とき ⑥ひきさかな	茶進め様 ③さけすすめよう ④ ⑤からきそめ	楊枝遣ひ様 ③しょさつまき物 ④ひきさかな ⑤とちうひとつれたち	本膳進め様 ②かけものかけよう ③ちやすすめよう ④ものうけよう	
	蠟燭しんきり様 ③とちうつれたち ④おうきすすめ	物受様 ①はかまきせ ②ほんせん ③しょうしふすま ④ろうそくしん	道中人つれだちよう ①はかまきせ ②おうきしんせ ③ほんせんすゝめ ④たばこほん ⑤きやくでむかい	
書冊巻物収め様 ②とちうつれだち ③ろうそくしんきり ④たばこほん	袴きせ様 ①ものうけ ②ようしつかい ③おうきすすめ ④ちやすすめ		ふりだし 小袖着せ様 ①ちやすすめやう ②ほんせんすすめやう ③おうぎしんやう ④やうじつかいやう ⑤ろうそくしんきり ⑥はかまきせよう	

資料 A-A 構成図



上り 春遊		御庭拝見 ①短冊 ②雛祭 ③活花 ④客あしらい ⑤おきうし	短冊 ①御庭 ②三曲 ④茶の湯 ⑤弥生
銚子 ②上り ③琴調 ④三曲 ⑤茶の湯 ⑥御香	おきうし ①上り ②短冊 ③御庭 ④琴調 ⑤茶の湯	三曲 ①短冊 ②琴調 ③雛祭 ④弥生	琴調 ②三曲 ③茶の湯 ④御香 ⑥客あしらい
弥生 ①茶の湯 ②雛祭 ③活花 ④客あしらい	雛祭 ②銚子 ③御香 ④弥生 ⑤客あしらい ⑥上り	御香 ②三曲 ③茶の湯 ④弥生 ⑤おきうし	茶の湯 ①御香 ②雛祭 ③活花 ④客あしらい ⑤琴調
客あしらい ①御庭 ③琴調 ④三曲 ⑤活花 ⑥おきうし	活花 ②短冊 ③銚子 ④御庭 ⑤客あしらい	ふりだし 御祝 ①御香 ②茶の湯 ③三曲 ④琴調べ ⑤御庭 ⑥客あしらい	

資料 A-B 構成図

上り		爪琴	貝合
		③さみほう ④をりひめ ⑤きぬた ⑥貝合	②上り ②をりひめ ②さし花香 ⑤つみわた
揮毫	糸採	歌よみ	裁縫
①つみわた ④さし花香 ⑤歌よみ ⑥上り	①挿花香 ③爪ごと ⑤上り ⑥茶のゆ	①糸とり ②かいあわせ ③上り ⑥さみほふ	③茶の湯 ④農業 ⑤茶のゆ ⑥てんがう
農業	挿花香	織ひ女	茶の湯
①織ひめ ②糸とり ③きぬた ⑤揮がう	①貝合 ②きぬた ④つま琴 ③農業	①きぬた ③糸とり ⑤つまごと ⑥つみわた	①かいあはせ ②のうげう ③織ひ女 ④歌よみ
摘綿	きぬた	ふりだし	
①てんがう ③挿花かう ④ちやのゆ ⑥裁縫	②裁縫 ④糸とり ⑤のう業 ⑥うたよみ	①きぬた ②摘わた ③茶のゆ ④をりひめ ⑤挿花香 ⑥農業	

資料 A-C 構成図

<p>上り</p> <p>新年のお礼</p>		<p>障子襖の開閉</p> <p>①上り ③硯すゝめやう ⑤行逢のれい</p>	<p>行逢ひの礼</p> <p>②上り ④主客應接 ⑥人の前をすぐる</p>
<p>硯すゝめ様</p> <p>②行逢のれい ④主客應接 ⑥茶のみやう</p>	<p>煙草盆扱ひ様</p> <p>①蠟燭のしん切り様 ③吸物すひ様 ⑤うがひ手水</p>	<p>主客應接</p> <p>②抹茶たてやう ④貴嬪より物を受る ⑥上り</p>	<p>人の前を過る</p> <p>①硯すゝめやう ③障子襖のあけたて ⑤主客應接</p>
<p>貴嬪より物を受る</p> <p>①煙草ぼん扱ひやう ②硯すゝめやう ③障子襖のあけたて</p>	<p>うがひ手水</p> <p>②茶のみやう ④吸物すひやう ⑥人の前をすぐる</p>	<p>蠟燭のしん切り様</p> <p>①主客應接 ②硯すゝめやう ③抹茶たてやう</p>	<p>吸物すひ様</p> <p>②蠟燭のしん切様 ④行逢ひのれい ⑥茶のみやう</p>
<p>茶飲みやう</p> <p>②うがひ手水 ④蠟燭のしん切様 ⑥硯すゝめやう</p>	<p>抹茶たてやう</p> <p>①貴嬪より物を受る ③吸物すひ様 ⑤主客應接</p>	<p>ふりだし 春駒のあそび</p> <p>①抹茶たてやう ②茶飲みやう ③吸物すひ様 ④蠟燭のしん切 ⑤うがひ手水 ⑥貴嬪より物を受</p>	

資料 A-D 構成図

上り 婚礼式の図		勉強の図  ②上り ④歌会 ⑤仰を伺ふ	歌会の図  ①上り ③勉強 ④座礼 ⑥活花
仰せを伺ふ図  ①勉強 ②絵画 ③盆石	座礼の図  ④歌会 ⑤上り ⑥琴調べ	絵画の図  ①裁縫 ②勉強 ③仰を伺ふ ④上り	囲碁の図  ②茶飲み様 ③歌会 ④座礼
琴調べの図  ①香きゝ様 ②絵画 ⑥囲碁	香きゝやうの図  ③囲碁 ④盆石 ⑤座礼 ⑥茶飲み様	茶の飲み様の図  ①絵画 ③活花 ⑤琴調べ	生花の図  ②香きゝ様 ④盆石 ⑤裁縫 ⑥勉強
盆石の図  ④仰を伺ふ ⑤裁縫 ⑥茶飲み様	裁縫の図  ①活花 ②琴調べ ③囲碁	ふりだし 年礼の図  ①活花 ②裁縫 ③盆石 ④茶飲み様 ⑤香きゝ様 ⑥琴調	

資料 A-E 構成図

<p>上り 座敷の歩み様</p>		<p>座に在る物を踏越へ べからず</p> <p>①上り ③扇子の ⑤上輩の</p>	<p>上輩の座敷へ行</p> <p>②上り ④書籍の ⑥恭けい</p>
<p>扇子の進め様</p> <p>②上輩の ④書籍の ⑥はなの</p>	<p>掛物の扱ひ様</p> <p>①さけの ③茶の湯 ⑤火鉢の</p>	<p>書籍の進め様</p> <p>②すみの ④途中人 ⑥上り</p>	<p>恭敬に程ある事</p> <p>①扇子の ③座にある ⑤書籍の</p>
<p>途中人と連立時</p> <p>①かけ物 ②扇子の ③座にある</p>	<p>火鉢の進め様</p> <p>②はなの ④さけの ⑥恭けい</p>	<p>茶の湯座敷に入る前</p> <p>①書籍の ②扇子の ③すみの</p>	<p>酒の受け様</p> <p>②茶の湯 ④上輩の ⑥途中人</p>
<p>鼻のかみ様</p> <p>②火鉢の ④茶の湯 ⑥扇子の</p>	<p>墨のすり様</p> <p>①さけの ③途中人 ⑤書籍の</p>	<p>ふりだし 茶の湯廻り花</p> <p>①すみの ②はなの ③さけの ④茶の湯 ⑤火鉢の ⑥途中人</p>	

資料 A-F 構成図

上り 結婚式		酒の進めやう ①煙草 ③上り ⑤茶の湯	きふじ ②主客 ④御飯 ⑥上り
茶の湯 ②上り ④掛物 ⑥香	茶の出し様 ①酒の ③客の案 ⑤いけ花	いけ花 ②きふじ ④免状 ⑥客の取	歌合 ①上り ③掛物 ⑤ふすま
客の取つぎ ①歌合 ③茶の湯 ⑤らふそく	囲碁の手合 ②いけ花 ④酒の ⑥煙草	客の案内 ①茶の湯 ③香 ⑤茶の出	煙草盆の出し様 ②きふじ ④掛物 ⑥は物
御飯のつけ様 ②いけ花 ④ふすま ⑥茶の湯	掛物あつかひ ①客の案 ③茶の出 ⑤裁縫	らうそくのしんきり ②囲碁 ④歌合 ⑥衣服	香きゝ ①煙草 ③茶の湯 ⑤主客
は物出し様 ①客の取 ②御飯 ③酒の	ふすまのあけたて ③衣服 ④免状 ⑥香	裁縫 ①らうそく ②御飯 ③主客	免状の受けやう ②裁縫 ④きふじ ⑥衣服
衣服あらため ②ふすま ④裁縫 ⑥御飯	主客應接 ①は物 ③免状 ⑤らふそく	ふりだし 音楽の合奏 ①主客 ②衣服 ③免状 ④裁縫 ⑤ふすま ⑥は物	

資料 A-G 構成図

上り 三曲		お酌  ②歌 ④囲碁 ⑥上り	囲碁  ①活花 ③途中禮 ⑤香
香をさく  ②お酌 ③禮 ⑤画 ⑥上り	途中のれい  ①上り ③書 ⑤案内	画  ②お酌 ③囲碁 ⑤案内	案内  ①活花 ③給仕 ⑥書
巻物あつかひ  ②活花 ④歌 ⑥香	書  ①給仕 ③禮 ④巻物 ⑤画	給仕  ②歌 ④書 ⑥禮	活花  ①画 ③禮 ⑤巻物
禮  ③書 ④囲碁 ⑥途中禮	歌  ①案内 ③香 ⑤画	ふりだし 茶の湯  ①活花 ②給仕 ③案内 ④禮 ⑤囲碁 ⑥巻物	

資料 A-H 構成図



<p>上り 蠟燭のしん切りやう</p>		<p>茶の喫しやう</p> <p>①吸物 ③物を授 ⑤上り</p>	<p>扇子すゝめやう</p> <p>②盃の ④上り ⑥上輩</p>
<p>障子襖の開閉</p> <p>②茶の ④行逢 ⑥上り</p>	<p>盆の受けやう</p> <p>①上り ③扇子 ⑤かけ物</p>	<p>行逢の礼</p> <p>②扇子 ④吸物 ⑥盃の</p>	<p>物を授受様</p> <p>①煙草盆 ③障子 ⑤上輩</p>
<p>上輩の前にて 扇子遣ひやう</p> <p>①行逢 ③書冊 ⑤茶の喫</p>	<p>吸物すひやう</p> <p>②物を授 ④かけ物 ⑥扇子</p>	<p>煙草盆進め様</p> <p>①座にある ③障子 ⑤書冊</p>	<p>座にあるものを踏越 えざる事</p> <p>②かけ物 ④吸物 ⑥盃の</p>
<p>かけ物扱ひ様</p> <p>②吸物 ④行逢 ⑥座にある</p>	<p>書冊類 すゝめやう</p> <p>①煙草盆 ③上輩の ⑤物を授</p>	<p>ふりだし 小袖の類着せやう</p> <p>①座にある ②かけ物 ③吸物 ④煙草盆 ⑤書冊 ⑥上輩</p>	

資料 A-I 構成図

<p>燭台扱ひ</p> <p>①上り ⑤硯箱 ⑥座にある物を</p>	<p>上り</p>
<p>小袖</p> <p>②引肴 ④燭台 ⑥煙盆</p>	<p>障子明け様</p> <p>①茶を喫し様 ③掛物扱ひ様 ⑤抹茶</p>
<p>茶を喫し様</p> <p>①小袖 ③上り ④障子明け様</p>	<p>硯箱</p> <p>①掛物扱ひ ②抹茶 ③障子明け様</p>
<p>座にある物を</p> <p>④小袖 ⑤燭台扱ひ ⑥茶喫し様</p>	<p>煙草盆</p> <p>①引肴 ③掛物扱ひ ⑤座にある物を</p>
<p>掛物扱ひ</p> <p>①引肴 ②障子明け様 ③座にある物を</p>	<p>抹茶</p> <p>②硯箱 ④煙盆 ⑥小袖</p>
<p>引肴</p> <p>④硯箱 ⑤煙盆 ⑥抹茶</p>	<p>ふりだし</p> <p>①硯箱 ②引肴 ③煙盆 ④抹茶 ⑤掛物 ⑥障子明け様</p>

資料 A-J 構成図

<p>ぼん画</p> <p>①席がき ②さし花 ④上り</p>	<p>あがり</p>	<p>三曲</p> <p>①席画 ②香くばり ⑥上り</p>
<p>茶のゆ</p> <p>②香くばり ④席画 ⑥三曲</p>		<p>いご</p> <p>③ぼん画 ④席がき ⑤茶のゆ</p>
<p>物よみ</p> <p>①席がき ③ぼん画 ⑤いご</p>	<p>せき画</p> <p>①三曲 ③物よみ ⑤いご</p>	<p>香くばり</p> <p>②三曲 ⑤さし花 ⑥いご</p>
<p>席がき</p> <p>②物よみ ④茶のゆ ⑥さし花</p>	<p>ふりだし ぬい針</p> <p>①席がき ②香くばり ③席画 ④さし花 ⑤物よみ ⑥いご</p>	<p>さし花</p> <p>④香くばり ⑤茶の湯 ⑥ぼん画</p>

資料 A-K 構成図

### 5.2.3. 各大カテゴリの出現数

絵双六資料群における各大カテゴリの出現数は、以下の表の通りとなった。

大カテゴリ別にみた出現数では女礼式が 85 回で最も多かった。次に趣味・教養の 48 回が多く、女礼式と趣味・教養の合計で全体の出現数の約 84 パーセントを占めていた。

家事・生業と祝い事がそれぞれ 9 回と 8 回の出現数で趣味・教養に続き、道徳が最も少ないという結果になった。

各大カテゴリ出現数	
女礼式	85
趣味・教養	48
家事・生業	9
祝い事	9
道徳	1
その他	5
計	157

### 5.2.4. 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数

大カテゴリのレベルで最も出現数の多かった女礼式の内訳は、起居進退が 19 回、物品薦撤が 15 回、陪侍周旋 17 回、授受捧呈 4 回、進饌程儀 13 回、飲食程儀 10 回、主客応接 7 回という結果になった。起居進退が最も多く出現していたものの、次点の陪侍周旋との出現数の差は 2 であり、他の主題に突出して多く描かれる主題はなかった。

一方、最も出現数が少ない授受捧呈の出現数は 4 であり、目立って少なかった。

大カテゴリ「女礼式」における 各中カテゴリの出現数	
起居進退	19
物品薦撤	15
陪侍周旋	17
授受捧呈	4
進饌程儀	13
飲食程儀	10
主客応接	7
計	85

### 5.2.5. 各小カテゴリの出現数

小カテゴリごとの出現数を見ると、最も出現数が多かったのは茶の湯で 9 回、次点に主客応接、生け花、演奏、書画の 7 回が続いた。各小カテゴリの出現数の一覧は、下記の表を参照されたい。

出現数の多い小カテゴリの主題は趣味・教養に集中しており、前項の結果に照らしてみると、女礼式では多様な主題が取り上げられる一方、趣味・教養では特定の主題が繰り返し取り上げられる傾向があったことが伺える。

各小カテゴリ出現数			
女礼式	起居進退	起つ様	1
		歩み様	6
		障子襖の開閉	5
		行逢の礼	5
		拝する様	2
	物品薦撤	料紙硯箱進め様	2
		煙草盆進め様	5
		刃物進め様	1
		扇子進め様	3
		火鉢進め様	1
		書冊巻物類収め様	1
		書冊巻物類進め様	2
	陪侍周旋	書冊巻物類扱い様	1
		燭台扱い様	5
		扇子扱い様	1
		掛物扱い様	5
		小袖扱い様	5
	授受捧呈	物の受け様	3
		物の授け様	1
	進饌程儀	本膳進め様	1
		引肴進め様	2
		給仕	4
		酒進め様	4
		茶進め様	2
	飲食程儀	茶喫し様	5

		酒受け様	2
		吸物すい様	2
		抹茶受け様	0
		楊枝遣い様	1
	主客応接	主客応接	7
趣味・教養		茶の湯	9
		生け花	7
		囲碁	4
		舟遊び	0
		香	6
		演奏	7
		盆石	2
		読書	1
		歌	5
		書画	7
家事・生業		砧	1
		機織り	3
		農業	1
		裁縫	4
祝い事		結婚式	2
		七五三	1
		新年	4
		雛祭り	2
道徳		孝貞	1
その他		顔を洗う	1
		お庭拝見	1
		うがい手水	1
		仰せを伺う	1
		鼻のかみ様	1

#### 5.2.6. 上がり、ふり出しにおける各カテゴリの出現数

上がり、ふり出しの各コマにおける各大カテゴリの出現数は、以下の通りであった。

大カテゴリでは、上がり、ふりだしともに「祝い事」が最も多かったものの、他の主題に比べて格別に多く取り上げられているというわけではなく、次点の「女礼式」との出現数の差は1のみであった。「祝い事」の中でも新年が最も多く取り上げられていたが、これ

は単に絵双六がお正月に遊ばれることの多い遊具であったため、季節感やおめでたさを演出する目的があったものと考えられる。

「祝い事」の他、趣味・教養では「三曲」「音楽の合奏」など複数の女性が配置される華やかな絵になる主題が置かれている一方で、「女礼式」では「座敷の歩み様」「起ち様」などの日常的で地味な主題が配されており、全体としては、上がりやふりだしに特別なコマを置くという傾向は見られなかった。

上がりにおける 各大カテゴリーの出現数	
女礼式	3
趣味・教養	1
家事・生業	0
祝い事	4
その他	0
なし	3
計	11

ふり出しにおける 各大カテゴリーの出現数	
女礼式	2
趣味・教養	3
家事・生業	1
祝い事	3
その他	0
なし	2
計	11

### 5.3. 画帖資料群調査結果

以下の項では、画帖資料群の調査結果について述べる。

#### 5.3.1. 調査対象資料の書誌

資料の基本情報を得るために、書誌事項の調査を行った。調査対象とした画帖の書誌事項は、以下の表を参照されたい。

## 資料 B-A

題名 (旧字)	石版女礼式
題名 (新字)	石版女礼式
題名 (読み)	せきばんじょれいしき
画工	不明
出版者	渡邊忠久
出版地	東京
出版日	明治 24 年 8 月 22 日
資料形態	画帖
印刷方法	石版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

## B) 資料 B-B

題名 (旧字)	
題名 (新字)	不明
題名 (読み)	
画工	不明
出版者	勝山繁太郎
出版地	東京
出版日	明治 26 年 10 月 24 日
資料形態	画帖
印刷方法	石版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

## C) 資料 B-C

題名 (旧字)	美術婦女禮儀画譜 全
題名 (新字)	美術婦女礼儀画譜 全
題名 (読み)	びじゅつふじょれいぎがふ ぜん



画工	不明
出版者	福田熊次郎
出版地	東京
出版日	明治 26 年 3 月 3 日
資料形態	画帖
印刷方法	多色摺木版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	複本有

D) 資料 B-D

題名 (旧字)	美術婦女禮儀画譜 全
題名 (新字)	美術婦女礼儀画譜 全
題名 (読み)	びじゅつふじょれいぎがふ ぜん
画工	不明
出版者	福田熊次郎
出版地	東京
出版日	明治 26 年 3 月 3 日
資料形態	画帖
印刷方法	多色摺木版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

E) 資料 B-E

題名 (旧字)	女禮式大全画帖完
題名 (新字)	女礼式大全画帖完
題名 (読み)	じょれいしきだいぜんがじょうかん
画工	不明
出版者	松野米次郎
出版地	東京
出版日	明治 30 年 12 月 10 日

資料形態	画帖
印刷方法	多色摺木版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	複本有

F) 資料 B-F

題名 (旧字)	教育女禮式
題名 (新字)	教育女礼式
題名 (読み)	きょういくじょれいしき
画工	不明
出版者	不明
出版地	不明
出版日	不明
資料形態	画帖
印刷方法	石版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

G) 資料 B-G

題名 (旧字)	美術女禮式繪圖 全
題名 (新字)	美術女礼式絵図 全
題名 (読み)	びじゅつじょれいしきえず ぜん
画工	不明
出版者	福田熊次郎
出版地	東京
出版日	不明
資料形態	画帖
印刷方法	多色摺木版
法量	中版
所蔵	個人蔵

OL 公開	無
備考	

H) 資料 B-H

題名 (旧字)	教育女禮式
題名 (新字)	教育女礼式
題名 (読み)	きょういくじょれいしき
画工	不明
出版者	不明
出版地	不明
出版日	不明
資料形態	画帖
印刷方法	石版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

I) 資料 B-I

題名 (旧字)	教育女禮式
題名 (新字)	教育女礼式
題名 (読み)	きょういくじょれいしき
画工	不明
出版者	不明
出版地	不明
出版日	不明
資料形態	画帖
印刷方法	石版
法量	中版
所蔵	個人蔵
OL 公開	無
備考	

### 5.3.2. 各大カテゴリの出現数

画帖資料群における各大カテゴリの出現数は、以下の表の通りとなった。

女礼式の出現数 54 が最も多く、続いて趣味・教養の 28、祝い事 11、道徳 7、家事・生業 6、その他 5 と続いた。女礼式と趣味・教養の出現数の多さは絵双六資料群と同様であったが、父母への礼儀や貞淑などの主題を扱っている大カテゴリ「道徳」は、絵双六資料群では 1 コマしか描かれておらず、画帖資料群に特有の項目であった。

各大カテゴリ出現数	
女礼式	54
趣味・教養	28
家事・生業	6
祝い事	11
道徳	7
その他	5
計	111

### 5.3.3. 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数

大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数を集計した結果、起居進退、物品薦撤、陪侍周旋でそれぞれ 11 の出現、進饌程儀で 9 の出現、飲食程儀で 7 の出現、主客応接で 5 の出現が見られた。

それぞれの中カテゴリの項目間で大きな出現数の差はなかったものの、授受捧呈の出現数のみ 0 となっており、研究対象とした画帖資料群では全く取り上げられていないという結果になった。これは絵双六資料群の調査結果と同様の傾向を示している。

大カテゴリ「女礼式」における 各中カテゴリの出現数	
起居進退	11
物品薦撤	11
陪侍周旋	11
授受捧呈	0
進饌程儀	9
飲食程儀	7
主客応接	5
計	54

#### 5.3.4. 各小カテゴリの出現数

料紙硯箱の類進め様、掛物扱様、主客応接、茶の湯、生け花、挨拶がそれぞれ出現数 5 で最も多く、小袖扱様、給仕、演奏、歌、裁縫、結婚式が出現数 4 で続いた。

画帖資料群では大カテゴリ女礼式の出現数が他と比べて突出して多かったが、小カテゴリでは茶の湯や生け花といった趣味・教養に関する主題も多く出現しており、絵双六で得られた傾向と同様、女礼式では多様な主題が描かれる一方で、趣味・教養では特定の主題が繰り返し描かれる傾向があったことが読み取れる。

各小カテゴリ出現数			
女礼式	起居進退	起つ様	2
		歩み様	3
		障子襖の開閉	2
		行逢の礼	2
		拝する様	2
	物品薦撤	料紙硯箱の類進め様	5
		煙草盆進め様	2
		刃物進め様	1
		扇子進め様	2
		書冊巻物類進め様	1
	陪侍周旋	燭台扱様	2
		掛物扱様	5
		小袖扱様	4
	授受捧呈		0
	進饌程儀	引肴進め様	2
		給仕	4
		酒進め様	1
		茶進め様	2
	飲食程儀	茶喫し様	2
		抹茶受け様	3
		楊枝遣い様	1
		食事	1
	主客応接	主客応接	5
趣味・教養	茶の湯	5	
	生け花	5	

		囲碁	1
		舟遊び	1
		香	1
		演奏	4
		盆石	1
		読書	2
		歌	4
		凶画	3
		学問	1
家事・生業		裁縫	4
		家庭教育	1
		料理	1
祝い事		月見	1
		卒業式	2
		結婚式	4
		七五三	2
		新年	1
		雛祭り	1
道徳		挨拶	5
		孝貞	1
		礼儀	1
その他		慈善会	1
		化粧	1
		人の前に出て物を見る	1
		言葉づかい	1
		お庭拝見	1

### 5.3.5. 本文の分析

画帖資料群において大項目「女礼式」中には22の小項目が含まれているが、このうち「小学女礼式第一」においても扱われている項目は、起居進退より「起つ様」「障子襖の開閉」「行逢の礼」「拝する様」の4項目、物品薦徹より「料紙硯箱の類進め様」「煙草盆進め様」「書冊巻物類進め様」の3項目、陪侍周旋より「燭台扱い様」「掛物扱い様」「小袖扱い様」の3項目、進饌程儀より「引肴進め様」「酒進め様」「茶進め様」の3項目、飲食程儀より「茶喫し様」「抹茶受け様」「楊枝遣い様」の3項目で、計16項目であった。

このうち、項目を取り上げていた全ての画帖中で本文の記載がなかった「書冊巻物類進

め様」「酒進め様」「楊枝遣い様」の3項目を除き、残りの13項目について、以下の項で「小学女礼式第一」と画帖の本文との比較を行った。

「小学女礼式第一」では、礼法の動作説明のために「起つ様」で99字、「障子襖の開閉」で136字、「行逢の礼」で188字、「拝する様」で137字、「料紙硯箱の類進め様」で216字、「煙草盆進め様」で52字、「燭台扱い様」で251字、「掛物扱い様」で451字、「小袖扱い様」で245字、「引肴進め様」で75字、「茶進め様」で96字、「茶喫し様」で58字、「抹茶受け様」で93字を費やしており、項目によってばらつきはあるものの、平均すると160字以上の文字数を使って細かな所作まで丁寧に説明している。

一方、画帖資料群では100字を超える例外もあるものの、概ね20字から50字程度で説明が付されており、本文の位置づけが図版の補助的なものであったことが伺える。文字数の制約を反映して、説明も大まかなものに留まっており、例えば小項目「起つ様」では、「小学女礼式第一」が「両手を膝の上に置き腰をたてなから足の爪先をも立て右の膝を少しくあげ体の起つに随ひて左の足を揃へて立ち両足の踵を地につけ腰を居へ肩を平らかにし臀を張らず縮めず頭頸を直くし正面に向ひ左右を回顧すへからず」と両手、腰、両足、膝、踵、肩、尻、頭、首などの部位の動きについて詳細に説明しているのとは対照的に、同項目を取り上げている画帖では「右の手を膝の上に置左の手お脇に着け立に随ひ左の足を揃へて立べし（石版女礼式）」と、一部では同じ表現を用いながらも大胆に省略され、要約された説明になっている。

#### 5.3.6. 本文と図版の比較

前項で「小学女礼式第一」と画帖資料群の本文とを比較した結果、画帖資料群においては各礼法の所作に関する説明文は「小学女礼式第一」の内容を要約したものであり、図版の補助的な位置づけに留まっていたことが示唆された。そこで、大項目「女礼式」に分類される図版群のうち、「小学女礼式第一」の本文と比較が可能で、かつ画帖資料群内で個別の資料に掲載されている複数図版の比較が可能な図版について、画帖本文と画帖に描かれている図版を人物の配置および礼法の所作の表現に着目して比較した。調査対象は起居進退より「起つ様」「障子襖の開閉」の2項目、物品薦撤より「料紙硯箱の類進め様」「煙草盆進め様」の2項目、陪侍周旋より「燭台扱い様」「掛物扱い様」「小袖扱い様」の3項目、進饌程儀より「引肴進め様」1項目、飲食程儀より「茶喫し様」「抹茶受け様」の2項目、計10項目である。

調査対象とした項目の図版では、同じ主題の図版群において、印刷形態や出版者の違いに関わらず描かれている場面や視点、人物の配置などに多くの共通点が見られた。特に「石版女礼式」と「美術婦女禮儀画譜 全」はそれぞれ渡邊忠久と福田熊次郎による出版物であり出版年も異なるが、共通して扱われている主題が多く、ほぼ同じ構図で描かれた図版や、ほぼ同じ表現が用いられた本文が付された図版が複数確認された。後年に出版された

画帖が、先の出版物から強い影響を受けていた可能性が考えられる。

また、描かれている人物の人数は2~6人で平均すると約3.3人となり、3人の人物が配置されている図版が26点中9点で最も多かった。同じ主題を扱っていても描かれる人数は資料によって異なっており、人数の差異は主題ではなく構図の複雑さや主題以外の礼式に触れているか否かといった資料ごとの特徴に現れていると考えられる。

登場人物の立場に着目してそれぞれの図版の人物配置を整理すると、本項で調査対象とした図版26点のうち主題となっている所作を行う女子が画面右側に配置されている図版は16点、中央に配置されている図版は2点、左側に配置されている図版は8点であり、右側に配置されている図版が最も多かったものの、次点の図版も少なくはなかった。明治女礼式浮世絵では客と主人、上輩と後輩など、様々な相対的立場に置かれた際の礼法の所作が取りあげられており、画帖資料群においては場面ごとの立場に応じて位置関係が変化していると考えられる。

上記を踏まえて背景の構図を見ると、室内における席次の基準となる床の間の位置は、床の間が描かれている図版17点のうち13点が画面右側、4点が左側と、ほとんどの図版で右側に描かれており、「抹茶受け様」などの、主題の所作をとる女子が客の立場である図版では上座のある右側に所作をとる女子が描かれている。こうした構図の特徴は、背景が大胆に省略されている絵双六資料群の図版や、より自由度の高い構図をとっている続絵資料群の図版には見られない。これは、画帖が右綴じの図書と同様、原則として右から左へ頁を繰って鑑賞する性質のものであるため、最初に目に入る右側により立場が上の人物を配置することが多かったのではないかと考えられる。

以下に調査対象とした各項目の図版と本文、および筆者による図版の注釈を掲載する。

#### A) 起つ様

両手を膝の上に置き腰をたてなから足の爪先をも立て右の膝を少しくあげ体の起つに随ひて左の足を揃へて立ち両足の踵を地につけ腰を居へ肩を平らかにし臀を張らず縮めず頭頸を直くし正面に向ひ左右を回顧すへからず

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」では、目上の人物が右側、「起つ様」の所作をとっている女子は左側に配置されている。視点が女子の背後にとられているため、左手の動きは不明であるが、女子は右手を膝に置き腰をたてており、起ちはじめの所作が描かれていると推定できる。

「美術婦女禮儀画譜 全」も「石版女礼式」と同様、左手の動きは不明であるが、女子は右手を膝に置き腰をたてており、起ちはじめの所作が描かれている。目上の人物が右側、「起つ様」の所作をとっている女子が左側に配置されている点、視点が女子の背後にとられている点、起ちはじめの所作を描いている点など、2つの図版には構図に多くの共通項が見られ



る。一方、「美術婦女禮儀画譜 全」では目上の人物と所作をとる女子の他に年少の少女を含む2人の人物が置かれており、より複雑な構図になっている。

「石版女礼式」

立ち様右の手を膝の上に置左の手お脇に着け立に随ひ左の足を揃へて立べし



図 1

「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式图画 起ち様右の手を膝の上に置左の手を脇に着け躰の起つに随ひて左の足を揃へて立つべし



図 2

## B) 障子襖の開閉

障子襖を右へ開かんとせは左のかたへよりて常の如く跪き膝を引かすして左の手にて引手を取り少しく開き次に右の手に手にて能き程に開くへし夫より立ちて柵を越え二足進みて右へ廻り障子襖のかたへ向ひ跪き左の手にて大かた閉さし次に右の手にてとさし盡すへし

但左へ開く時は右の反対を心得へし

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」では、対面する年長の女性2人を右側に、「障子襖の開閉」を行う女子を左側に配置している。襖はすでに開かれており、女子の右手も襖から離れている。所作が終了した場面を描いているものと推定される。

一方、「美術婦女礼儀画譜 全」は、机に向かう年長の女性を右側、少し若い女性を中央、襖を開ける所作を行う女性を左側に配置している。所作を行う女性が左に置かれていることは2つの図版に共通しているが、描かれている女性たちのなかで最も若いのは中央に立った姿勢で描かれている女性であり、左側の女性は目立たない。また、「石版女礼式」と同様、襖はすでに十分に開かれており、手は床に置かれている。

### 「石版女礼式」

障子襖等を開けるには跪つき左の手にて引手を開けて柵ひより三四寸上の處に右の手を附け開くべし



図 3

「美術婦女礼儀画譜 全」

女礼式図画 障子襖を開かんとせば跪つき左の手にて引手を取り少しく開き左の手を梱ぎハより三四寸ほど上のところにつけ開くべし



図 4

### C) 硯箱進め様

硯箱を料紙の上に戴を両手に持ち出て前に置き先つ硯箱を取りて我左の方によせ料紙を両手にて順に取廻し受くる人の左の方に進め次に硯箱を正面によせ蓋をとりて同じく右の脇に置き（蓋の上に模様あるものは其儘伏せて置き模様なきものは仰むけておくへし）水滴をとりて水を注ぎ墨を磨り筆を墨汁に浸し而して硯箱を順に取廻し進むへし

収むる時は料紙を手前へ引寄せ順にとり廻し次に硯箱を引寄せ蓋をなしてまた順にとり廻し料紙の上に載せて元の如く持ちて還るへし

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」では画面左側に目上の年長の女性、画面右側に硯箱を進める女子が描かれている。体が小さいこと、着物の肩上げがとれていないことなどから、他の図版で描かれている女子よりもさらに年少であると推定できる。

硯にはすでに墨が用意されており、硯を進める動作が描かれている。手の所作については本文では触れられていないが、女子は左手を使わず右手のみで硯を差し出している。

「(不明)」も「石版女礼式」と同様、年長の女性を左、所作を行う女性を右に配置しているが、視点は所作を行う女性の背後にとられている。視点が異なるため背景の印象も変



わっているが、年長の人物はどちらの図版でも床の間を背にするように、上座に配置されている。また、「(不明)」ではすでに硯は年長の女性のもとに渡っており、硯に続いて筆を出す場面が描かれている。

「石版女礼式」

硯箱進めやう両手にて持参り墨をすり客の方に向け進むべし



図 5

「(不明)」

(前略) また硯短冊杯のぞまるゝ時ハ硯は箱を能く掃除いたし墨をすりて筆を添て出すべし短冊は盆え乗せて客の方へ前を向けて出すべし 勝山記



図 6

#### D)煙草盆進め様

煙草盆の内に火壺をは客の左のかたに唾壺を右のかたにして之を両手に持ちて出て進むへし収むる時も同じ心得なり

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」、「美術婦女禮儀画譜 全」ともに、左側に煙草盆を進める女性、右側に煙草盆を受ける女性を配置し、両手で煙草盆を持って進める場面が描かれている。煙草盆を受ける立場の女性の人数は「石版女礼式」、「美術婦女禮儀画譜 全」ともに2人であり、画面奥に描かれる女性はほぼ同じ姿勢で扇子を手をしている。

どちらの図版でも画面の奥には広く庭園が描かれており、遠近感のある構図である。視点もほぼ同じ位置にとられているが、「美術婦女禮儀画譜 全」では画面後方に手前に向かって歩いてくる女性が小さく描かれ、より複雑で動きのある構図になっている。

#### 「石版女礼式」

煙草盆のすゝめ様は火入をば客の左のかたにして跪つき両手にて少しく進ミ置起つべし



図 7

「美術婦女禮儀画譜 全」

女禮式図画 煙草盆進め様煙草門の内の火壺をバ客の左のかたにしてひさまつぎ両手にて  
少しく進みおき起ちかへるべし



図 8

#### E) 燭台扱い様

燭臺のさほを左の手に持ち基を右の手に持ちて出て常の如く跪き之を置くへしふた枝  
出たす時ハ上座の方より出たし下座より引くへし

但足三つあるものハ二つを上座のかたへ向け一つを下とす又二枝出たす時ハ二つの足  
をむかハをて置くへし且燭剪掛あるものハ其かたを下とすへし

燭の剪り様は燭壺を左の手に持ち右の手に燭剪を持ちながら燭基にそへて進み出て燭  
臺の前に跪き燭壺を下に置き燭剪を其上に口を夫より燭基を右に持ち口燭を左にてぬ  
き右にて燭をきり再び右にて基を持ち左にて蠟燭口立つるなど又数多き時は燭基に立  
ちたるまゝ燭を切るへし

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

どちらの図版も、画面右側の女性が右手で芯切りを持ち、蠟燭の芯を切るために燭台に手を近づけている場面が描かれている。また、双方とも燭台の前には箆が置かれており、「石版女礼式」で画面奥に描かれている太陽が山に沈みかかっていること、箆の前に座る女性が箆爪を外す動作をしていることから、夕方方の箆の稽古が終った後に、手元を照らすための蠟燭の灯りを消している場面であると考えられる。

「石版女礼式」

燭台の扱ひやうは跪きて置くべし亦燈剪掛あるものは爐壺を左の手に持ち右の手は燈剪を持ちしんを切るべし



図 9

「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式図画 燭臺扱ひ様燭臺を持て跪き置べし且燭剪掛あるものハ燭壺を左の手にもち右の手に燭剪持しんときるべし



図 10



## F) 掛物扱い様

掛物と又竿とを臺にのせ（又は臺にのせすして左の手に軸の中程を持ち右にて又竿を持ちながら軸の右端にそへ持ち出るもあり）床の前に跪き臺を右に置き軸を右の手に取揚げ左の手に移し紐を右にて解き小指の間に挟み軸の上をとり一文字の邊まで被き床の上に置き風帯を右のかたより整のへ右の手に又竿をとり掛緒を挟み（此時左の手にて掛緒を持つなり）程能き所まで被き右の足口被きふた膝退きて跪き再び竿を取りて立ちふた足進みひつみをなおし二足退き一覽し次に竿を臺にのせて持ち還るへし  
収むる時は又竿を臺に載せ持ちて出て（臺なき時は竿を右の手に携ふべし）床の前に跪き臺を右のかたに置き膝を進め竿を取りて床の方に建て両手にて掛物の軸をとりてまきながら起ち程能き所にて軸を左の手に持ち竿を右の手に取りて掛緒を弛し二足退きて跪き掛物を其儘床の上に置き竿を臺に載せ風帯を左にとり収め掛物を巻き盡し左の手に持ち紐を右の手にて元の如く結びて臺にのせ之を右の手に居して退くへし

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」「(不明)」「美術婦女禮儀画譜 全」「教育女禮式」では、所作をとる女子の前方に視点がとられている一方、「教育女禮式」の視点は掛物を扱う女子の後方にとられ、画面に背を向ける姿勢で描かれている。前者に共通して女子は竿を手に取り掛物を振り返り背後にいる人物に視線を向けており、床の間が右、掛物を広げる女子が中央右寄り、その他の女性が左に配置されている。「教育女禮式」では「掛物扱い様」と同時に「燭台扱い様」についても触れられており、燭台を持つ女性が大きく描かれている。

### 「石版女礼式」

掛物の扱ひ様はかけものと竿を持床の前に跪き軸を開き打釘へ掛け扱ふて一覽し退くべし



図 11



「(不明)」

掛物 幅物を掛替るには先掛である品をはづし能く掃除して仕舞座敷も清くして新きの掛ものを掛べし床ふちなぞへ決して手足を掛けべからず先幅を左の手に持ち右の手に竿を持ちて壁にさわらぬ様両手を添へて掛け静に開卷致すべし 東洲記



図 12

「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式図画 掛物扱ひ様掛物と竿を持床の前に跪き軸をひらき打釘へかけ軸をこと／＼く披き一覧し竿を持かへるべし



図 13

「教育女禮式」

掛物のかけ様 掛物のかけ様ハ右手に鶯竿を持ち左手に掛物を能桂に開き跪て床に登り右膝をうかして立ちあかりかくべし燭臺ハ右の手に中を持ち左の手を基に添へて持べし



図 14

「教育女禮式」

小学必携女禮式 掛物扱ひよう 掛物と又竿とを基にのせずして左の手に軸の中程を持ち右の手にて又竿をもちながら軸の右の端にそへ持つるもあり



図 15

### G) 小袖扱い様

常の如くたゝみたるをハ襟先を左に上まえを上になし之を置き左右の袖口の上の方を右に持ち左にて襟を引出し次に袖付の上のかたを左に持ち右にて同しく下の方を持ちて少し引立て両袖を手前へ返し袖付の上下とも左の手に併せ持ち右にて左右の後ろ幅と前幅との折目を持ちふたつに折りなから裾を左に持ちかへ右に中程を取りて下に置き袖を向ふの方へ返すへし

同しくきせ様は前の如く袖畳みになしたるを両袖口の上のかたを右に取り而して両手に袖口の上を持ち小指をその内に入れて拇指と次指にて襟を持ち右の足より立ちて着せ参らすなり

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」「教育女禮式」「教育女禮式」のいずれも、着付けを受ける女性、着付けをする女性、そしてそれを眺める女性の 3 人の人物が描かれ、着付けを受ける女性が最も目立つ位置に配置されている。着付けの様子を眺める人物は「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」では若い女性であり、「教育女禮式」では年長の女性、「教育女禮式」では年少の女子である。着付けの段階も小袖を羽織らせているもの、裾を合わせているもの、帯を結んでいるもの、既に着付けが済んでいるものがあり、多様な場面が描かれている。

#### 「石版女礼式」

羽織小袖の着せ様たゝみたるお両手にて袖口を把り襟を持ちて引立て着せるべし



図 16



「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式図画 小袖羽織の類着せ様たゝみたるを右手にて袖口を杷り襟を持って引立て着せ参らすなり



図 17

「教育女禮式」

小学必携女禮式 小袖着せよう 常の如くたゝみたるをバ両手にて右左の袖口を捲り小指をその内に入れおや指と次指にてゑりをもちて引たて右の足よりたち袖口の手をはなし左の手よりきせまいらすなり



図 18

### 「教育女禮式」

衣紋の整はさるは人に軽く侮らるゝ本なるハ潔く慎みて正しく着する事肝要なり締なく胸先きを開き或ハ褻先ちんばに着したるハ誠に見苦しく且又失礼なるものなれば能く注意すべきものなり



図 19

### H) 引肴進め様

肴を重箱か鉢にとりて膳にのせ其内に箸を入れ（手前の右の縁にかけ）て出て前の如く膳を斜に置吸い物椀の蓋を取りて肴をもり下へ被きて次客へも右の如く進むへし

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」ともに右側に客の女性が2、3人、左下に客に引肴を進める女性が配置され、画面奥には庭園が描かれている。「石版女礼式」では庭園に庭木が、「美術婦女禮儀画譜 全」では橋の架かる池が配置されている。

いずれもすでに蓋が取られている吸物椀に魚を盛っている場面が選択されており、「美術婦女禮儀画譜 全」で所作をとる女性の背後に控えている女性がもう一人描かれていることや背景となっている室内の間取りを除けば構図の共通点が多い。図版と同様、本文もほぼ同じ文面で説明されている。

「石版女礼式」

引さかな進め様肴を鉢に盛り膳にのせて出て客の場で置き吸もの椀の蓋を取り肴を盛て進むべし



図 20

「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式図画 引肴進めやう肴を鉢にもりて膳にのせて出で客の場に置き吸物椀の蓋をとり肴をもりて進むべし



図 21



#### D)茶喫し様

茶碗を右の手に取り左の手をそへ一旦下におき座中を見合せ之を呑み終りて臺の上に置く  
へし下輩は臺にのをすして下に置くべし

\_\_\_\_\_「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」ともに、画面右奥に床の間、左奥に庭園が描かれ、上座で茶を待つ客の女性が配置されている。客の人数は「石版女礼式」では3人、「美術婦女禮儀画譜 全」では2人である。

「茶喫し様」では客の立場として出された茶を飲む際の作法が取り上げられているが、茶はまだ運ばれている段階であり、本文中で左右の手の使い方などの具体的な説明がなされているにもかかわらず、主題となっている喫茶の所作は描かれていない。主題の所作をとる女性の立場が客と主人とで異なっているものの、「引肴進め様」の図版と共通点のある構図になっている。また、本文も「引肴進め様」と同様に共通の表現で所作の説明がなされており、「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」ともに「小学女礼式第一」の説明から茶碗を一旦下へ置いて座中に見合わせるという部分が省略されている。

#### 「石版女礼式」

茶喫し様は茶碗を右の手に取り左の手を添へて呑おわりて台のうへに置くべし



図 22

「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式図画 茶喫し様茶碗を右の手にとり左の手をそへて呑おはりて台の上に置くべし



図 23

#### J) 抹茶受け様

茶碗の底を左の手に居し右の手を向ふの上の方にあてゝ受取り夫より右の拇指を茶碗の手前になし他の指を向ふの方へのはし茶を呑み畢りてかけすして膳の内へ入れおくなり（上中下の様体を取る時に同じ）

\_\_\_\_\_ 「小学女礼式第一」より引用

「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」では共通して画面右奥に庭園が描かれ、右側手前に抹茶を受ける女子が、左奥に抹茶を進めた女性が配置されている。どちらの図版でも茶碗の底に左手を置いて側面に右手を添える形で抹茶を受け取る場面が描かれており、客の人数が2人と3人という差異はあるものの、ほぼ同じ構図で描かれている。

一方、「教育女禮式」では先に述べた2点の図版とは逆に、視点が庭園からとられており、画面右奥に小さく茶室が配置されている。茶室の内部には主人と2人の客が描かれているものの、茶は準備されておらず、最も目立つ形で大きく描かれているのは画面左側に配置された、庭を歩いて茶室に向かっている3人の女性である。本文では「石版女礼式」「美術婦女禮儀画譜 全」同様に「小学女礼式第一」を要約した「抹茶受け様」の所作の説明がなされているが、図版で描かれている場面とは乖離している。



「石版女礼式」

抹茶受け様は茶碗の底に左の手をすへ右の手を向の上の方にあてゝ受取べし



図 24

「美術婦女禮儀画譜 全」

女礼式图画 抹茶受け様茶碗の底へ左の手をすへ右の手を向ふの上の方へあてうけとるべし



図 25

「教育女禮式」

小学必携女禮式 抹茶受けし 茶碗の底へ左の手をすゑ右の手を向の上の方にあてゝ受取  
大より右のおや指を茶碗の手前になし他の指を向へのバシ茶を呑みおはりて下におくべし



図 26

5.4. 続絵資料群調査結果

以下の項では、続絵資料群の調査結果について述べる。

5.4.1. 調査対象資料の書誌

資料の基本情報を得るために、書誌事項の調査を行った。調査対象とした続絵の書誌事項は、以下の表を参照されたい。

A) 資料 C-A

題名 (旧字)	女礼式之図
題名 (新字)	女礼式之図
題名 (読み)	じょれいしきのず
画工	応需松斎吟光
出版者	佐々木豊吉
出版地	東京都京橋区尾張町2丁目1番地
出版日	明治20年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版

法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

#### B) 資料 C-B

題名 (旧字)	教育女禮式之圖
題名 (新字)	教育女礼式之図
題名 (読み)	きょういくじょれいしきのず
画工	東洲勝月
出版者	小林鍊次郎
出版地	東京都日本橋区通 3 丁目 13 番地
出版日	明治 21 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

#### C) 資料 C-C

題名 (旧字)	婦女禮式圖會
題名 (新字)	婦女礼式図絵
題名 (読み)	ふじょれいしきずえ
画工	豊原国周
出版者	石島八重
出版地	日本橋区通 3 丁目 1 番地
出版日	明治 22 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

## D) 資料 C-D

題名 (旧字)	女禮式之圖
題名 (新字)	女礼式之図
題名 (読み)	じょれいしききょういくのず
画工	応需松齋吟光
出版者	福田熊次郎
出版地	東京都日本橋区长谷川町 19 番地
出版日	明治 22 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

## E) 資料 C-E

題名 (旧字)	女禮式給仕之圖
題名 (新字)	女礼式給仕之図
題名 (読み)	じょれいしききゅうじのず
画工	楊洲周延
出版者	武川卯之吉
出版地	日本橋区本銀町 2 丁目 12 番地
出版日	明治 23 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

## F) 資料 C-F

題名 (旧字)	女禮式之圖
題名 (新字)	女礼式之図
題名 (読み)	じょれいしきのず

画工	楊洲延一
出版者	永松作五郎
出版地	日本橋区室3丁目10番地
出版日	明治23年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL公開	有
備考	

#### G) 資料 C-G

題名 (旧字)	婦女禮式圖會
題名 (新字)	婦女礼式図絵
題名 (読み)	ふじょれいしきずえ
画工	楊洲周延
出版者	綱島亀吉
出版地	日本橋区馬喰町2丁目14番地
出版日	明治23年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL公開	有
備考	

#### H) 資料 C-H

題名 (旧字)	女礼式給仕之図
題名 (新字)	女礼式給仕之図
題名 (読み)	じょれいしききゅうじのず
画工	楊洲周延
出版者	武川卯之吉
出版地	日本橋区本銀町2丁目12番地
出版日	明治23年

資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

D) 資料 C-I

題名 (旧字)	女礼式の内 茶の湯の図
題名 (新字)	女礼式の内 茶の湯の図
題名 (読み)	じょれいしきのうち ちゃのゆのず
画工	楊洲延一
出版者	辻岡文助
出版地	東京市日本橋区横山町3丁目2番地
出版日	明治26年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

J) 資料 C-J

題名 (旧字)	女礼式 四季之活花
題名 (新字)	女礼式 四季之活花
題名 (読み)	じょれいしき しきのいけばな
画工	楊洲延一
出版者	武川清吉
出版地	日本橋区本銀町2丁目12番地
出版日	明治26年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館

OL 公開	有
備考	

K) 資料 C-K

題名 (旧字)	女礼式略図 婚礼
題名 (新字)	女礼式略図 婚礼
題名 (読み)	じょれいしきりやくず こんれい
画工	楊洲周延
出版者	辻岡文助
出版地	東京市日本橋区横山町 3 丁目 2 番地
出版日	明治 26 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

L) 資料 C-L

題名 (旧字)	略図女礼式
題名 (新字)	略図女礼式
題名 (読み)	りやくずじょれいしき
画工	楊洲周延
出版者	辻岡文助
出版地	東京市日本橋区横山町 3 丁目 2 番地
出版日	明治 28 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

## M) 資料 C-M

題名 (旧字)	婦人諸禮式の圖 屠蘇
題名 (新字)	婦人諸礼式の図 屠蘇
題名 (読み)	ふじんしょれいしきのず とそ
画工	楊洲周延
出版者	勝木吉勝
出版地	東京市下谷区数寄屋町 15 番地
出版日	明治 29 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

## N) 資料 C-N

題名 (旧字)	婦人諸禮式の圖 生花
題名 (新字)	婦人諸礼式の図 生花
題名 (読み)	ふじんしょれいしきのず いけばな
画工	楊洲周延
出版者	勝木吉勝
出版地	東京市下谷区数寄屋町 15 番地
出版日	明治 29 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

## O) 資料 C-O

題名 (旧字)	婦人諸禮式の圖 婚禮
題名 (新字)	婦人諸礼式の図 婚礼



題名（読み）	ふじんしよれいしきのず こんれい
画工	楊洲周延
出版者	勝木吉勝
出版地	東京市下谷区数寄屋町 15 番地
出版日	明治 33 年
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

P) 資料 C-P

題名（旧字）	女礼式歌合
題名（新字）	女礼式歌合
題名（読み）	じょれいしきうたあわせ
画工	河鍋暁翠
出版者	武川清吉
出版地	日本橋区本銀町 2 丁目 12 番地
出版日	不明
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

Q) 資料 C-Q

題名（旧字）	幼女禮式教育之圖
題名（新字）	幼女礼式教育之図
題名（読み）	ようじょれいしききょういくのず
画工	楊洲周延
出版者	坂井金三郎
出版地	日本橋区茅場町 4 番地

出版日	不明
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

R) 資料 C-R

題名 (旧字)	女禮式之圖
題名 (新字)	女礼式之図
題名 (読み)	じょれいしきのず
画工	応需松斎吟光
出版者	横山園松
出版地	神田区小川町 1 番地
出版日	不明
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

S) 資料 C-S

題名 (旧字)	女禮式略圖 婚禮
題名 (新字)	女禮式略図 婚礼
題名 (読み)	じょれいしきりやくず こんれい
画工	楊洲周延
出版者	武川清吉
出版地	日本橋区本銀町 2 丁目 12 番地
出版日	不明
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判

所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

T) 資料 C-T

題名 (旧字)	女禮式略圖
題名 (新字)	女礼式略図
題名 (読み)	じょれいしきりやくず
画工	楊洲周延
出版者	武川清吉
出版地	日本橋区本銀町 2 丁目 12 番地
出版日	不明
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	筑波大学附属図書館
OL 公開	有
備考	

U) 資料 C-U

題名 (旧字)	女礼式書画之図
題名 (新字)	女礼式書画之図
題名 (読み)	じょれいしきしよがのず
画工	楊洲周延
出版者	武川卯之吉
出版地	日本橋区本銀町 2 丁目 12 番地
出版日	不明
資料形態	続絵
印刷方法	多色摺木版
法量	大判
所蔵	国立国会図書館
OL 公開	有
備考	

#### 5.4.2. 各大カテゴリの出現数

続絵資料群における各大カテゴリの出現数は、以下の表の通りとなった。

趣味・教養の出現数 30 が最も多く、女礼式の 26、祝い事 9、家事・生業 3 と続いた。道徳の出現数は 0 であった。全体に占める女礼式と趣味・教養の出現数の割合の高さは絵双六資料群・画帖資料群と同様の傾向であったが、続絵資料群では女礼式に関する主題よりも趣味・教養に関する主題が多く描かれている結果となった。

各大カテゴリ出現数	
女礼式	26
趣味・教養	30
家事・生業	3
祝い事	9
道徳	0
その他	0
計	68

#### 5.4.3. 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数

大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数を集計した結果、進饌程儀の出現数 9 が最も多く、起居進退、物品薦撤の出現数が 4、陪侍周旋の出現数が 3 と続いた。調査対象資料に「給仕」を主題とした続絵が複数含まれていたことが、進饌程儀の出現数を押し上げたと考えられる。

これまでの絵双六資料群、画帖資料群の調査結果でも見られたように、続絵資料群においても授受捧呈の出現数のみ 0 という結果となった。

大カテゴリ「女礼式」における 各中カテゴリの出現数	
起居進退	4
物品薦撤	4
陪侍周旋	3
授受捧呈	0
進饌程儀	11
飲食程儀	1
主客応接	0
計	23

#### 5.4.4. 各小カテゴリの出現数

小カテゴリごとの出現数で最も多かったのは、生け花、茶の湯、結婚式の 9 であり、次点の酒進め様と歌が 5 であった。絵双六、画帖の調査結果と同様、小カテゴリのレベルで目立って出現数が多かったのは趣味・教養に関する主題であった。

各小カテゴリ出現数			
女礼式	起居進退	行逢の礼	4
		拝する様	1
		座礼	1
	物品薦撤	料紙硯箱の類進め様	2
		書冊巻物類進め様	2
	陪侍周旋	掛物扱い様	3
		煙草盆扱い様	1
	授受捧呈		0
	進饌程儀	給仕	1
		酒進め様	5
		吸物進め様	2
		茶の進め様	2
		菓子の進め様	1
	飲食程儀	吸物すい様	1
茶喫し様		1	
趣味・教養		歌	5
		茶の湯	9
		生け花	9
		香	1
		盆石	1
		折紙	1
		演奏	0
		書画	4
		絵付け	2
		並べ絵	1
家事・生業		裁縫	3

祝い事		結婚式	9
-----	--	-----	---

#### 5.4.5. 本文の分析

続絵資料群において、本文のあった資料は資料 C-G 「婦女禮式圖會」1点のみであった。本項では、同資料の本文の翻刻を行い、「小学女礼式第一」の記述との比較を行う。同資料で扱われている主題は、「生け花」「茶の湯」「掛物扱様」の3種であったが。「小学女礼式第一」では「生け花」「茶の湯」に関する記述がないため、以下では特に「掛物扱様」の記述について述べたい。

以下に同資料の本文の翻刻と図版を掲載する。

かめ花いけ之事

四季心得之事

春ハ物事新らしくにぎやかに挿あらハレ古めきたる枝葉を用ひす一瓶の中きほひあがりたる枝ありて色かちにさすべし夏ハ草花かちに青葉しげミの体にて道具を左右へ長く出し水際をくつろけ涼しくさすべし秋ハ一瓶もの淋しく苦しやれをあしらひ照葉を用下草繁くさすべし冬は枯たる躰にて上をかるく下葉繁く松いぶきなどさしかたひ寒空のこゝろえあるへきなり

柄杓をとり釜の湯を茶碗によきほど汲ミいれ柄杓ハ釜の縁へ置茶釜を取てまつ

穂先にて茶を湯にませ左りの手に持せ右の手にて柄杓を持て湯を茶碗へつぎて後茶釜を右の手へ移しよく中の茶を点ておわりて茶釜ハ元の処へをき茶碗谷の手にとり左の掌へのせ客の方へ向ひ上客へ呈す

上客ハ之を飲て第二客へ廻せは亭主は此時右の手に柄杓をとり左の手へ移し釜のふたをなし柄杓ハ水こぼしの上へなゝめにおき跡の方へ下げおくべし

又ふたおきをとり水こぼしの後の方へ置再び客の方へ向き客の茶飲おはるを待へし

掛物心得

掛物一幅仔細なし三ぶく対ハ中尊上下と掛るなり右に掛棹左に掛物を持両手にてさら / \ とときおろすなり

屏風ハ真中を二ツにわけ左右へ開く墨跡ハ上座、画ハ下座墨画ハ上座彩色ハ下座彩色ハ下座

但シ筆者の位にもよるべし



図 27

掛物と又竿とを臺にのせ（又は臺にのせずして左の手に軸の中程を持ち右にて又竿を持ちながら軸の右端にそへ持ち出るもあり）床の前に跪き臺を右に置き軸を右の手に取揚げ左の手に移し紐を右にて解き小指の間に挟み軸の上をとり一文字の邊まで被き床の上に置き風帯を右のかたより整のへ右の手に又竿をとり掛緒を挟み（此時左の手にて掛緒を持つなり）程能き所まで被き右の足にて立ちて折釘へかけ竿を右の脇にたてつけ左右の手にて軸を持ち坐してから盡被きふた膝退きて跪き再び竿を取りて立ちふた足進みひつみをなおし二足退き一覽し次に竿を臺にのせて持ち還るへし

収むる時は又竿を臺に載せ持ちて出て（臺なき時は竿を右の手に携ふべし）床の前に跪き臺を右のかたに置き膝を進め竿を取りて床の方に建て両手にて掛物の軸をとりてまきながら起ち程能き所にて軸を左の手に持ち竿を右の手に取りて掛緒を弛し二足退きて跪き掛物を其儘床の上に置き竿を臺に載せ風帯を左にとり収め掛物を巻き盡し左の手に持ち紐を右の手にて元の如く結びて臺にのせ之を右の手に居して退くへし

「小学女礼式第一」より引用

「掛物扱い様」の説明に費やされている文字数は「婦女禮式圖會」が 105 字、「小学女礼式第一」が 451 字であった。「小学女礼式第一」では掛物を扱う際の所作が詳細かつ具体的に指示されているが、画帖の説明文と同様、続絵の説明文でも大胆な抜粋がなされている。

画帖資料群中の「掛物扱い様」を主題とした図版では掛物を持つ女子は画面の右側に描かれ、体を画面後方の床の間に向けながら画面手前にいる別の人物を振り返るという構図をとっていることが多かったが、本図版では女子は左手に描かれ、視点は床の間の掛物に向いている。また、「婦女禮式圖會」ではひとつの図版の中で掛物の扱いと同時に屏風の扱



いについても触れられており、ひとつひとつの主題を詳細に示すよりもひとつの画面に複数の主題を描き、女子が学ぶべき礼式としてどのようなものがあるのかという例を示す意図があったのではないかと考えられる。

## 6. 考察

### 6.1. 資料形態別の特徴

主題の分類と出現数の集計結果によって、各資料に共通して以下の特徴が得られた。

- ① 各大カテゴリの出現数は、女礼式と趣味・教養が多い。
- ② 大カテゴリ「女礼式」中における各中カテゴリの出現数では、突出して出現数が多い主題は見られない一方で、授受捧呈の出現数が著しく少ない。
- ③ 各小カテゴリの出現数では、茶の湯、生け花などの趣味・教養に関する主題が多い。

以上から、明治女礼式浮世絵では「小学女礼式第一」の影響を受けた女礼式に関する項目と合わせて趣味・教養に関する主題が中心的に取り上げられており、特に人気のある諸芸については個別の女礼式に関する主題よりも多く描かれていたことがわかった。絵双六・画帖では趣味・教養よりも女礼式の出現数が多く、続絵では女礼式よりも趣味・教養の出現数が多いという結果になったが、その他の点では大カテゴリ、中カテゴリ、小カテゴリのいずれでもそれぞれの資料でよく取り上げられる主題は共通しており、主題分類の集計結果では資料形態別に特徴的な傾向は見られなかった。松野米次郎、福田熊次郎の出版による資料は、絵双六と画帖で全く同じ図版が使われているものもあり、図版は資料形態別に作成されたものではなく、作成した図版をさまざまなメディアに加工して販売していたのではないかと考えられる。

### 6.2. 「小学女礼式第一」の影響

絵双六資料群、画帖資料群、続絵資料群に共通して、助詞の有無や表記の揺れを除くと「小学女礼式第一」中の項目とほぼ同じ図版名で扱われている主題が見られた。また、「小学女礼式第一」中に記述のない主題についても、礼法に関する主題であれば同資料の「起居進退」「物品薦撤」「陪侍周旋」「授受捧呈」「進饌程儀」「飲食程儀」の大項目名に沿って分類することが可能であった。このことから、明治女礼式浮世絵は「小学女礼式第一」の影響を少なからず受けていたと判明した。「小学女礼式第一」が伝えた基本的礼儀作法がその他の礼法書を介して一般に広まり、女礼式を教授する際に身に着けさせるべき事項についての共通認識を形成していたものと推察される。

前項でも述べた通り、主題の出現数調査では中カテゴリの各項目間で出現数にそれほど大きな差は見られなかったにも関わらず、授受捧呈の出現数のみ極端に少ないという結果になった。これは、調査対象資料の鑑賞者であった少女たちにとって、授受捧呈に関わりの弱い動作であったことによるのではないかと考えられる。「小学女礼式第一」の著者はも

ともと武家作法の大家であったため、同資料も作法家としての著者の知識と経験に基づく価値観によって記述する主題が取捨選択されている。武士の生活と比較して、一般家庭の女子は目上の人物から物を受けたり捧げたりという機会を持つことが少なかったのではないだろうか。「小学女礼式第一」の著者の意図と、実際の家庭生活で必要とされる礼儀作法との間で差が生じていたと考えられる。

### 6.3. 高等女学校における教育内容の影響

絵双六資料群、画帖資料群、続絵資料群ともに、最も描かれる頻度が高かった主題は「茶の湯」「生け花」であった。調査対象資料の出版年は明治20年～30年代であり、近代化が進み印刷技術の発展した明治中後期の出版物であるにも関わらず、洋食・洋装に関する礼法や洋楽器の演奏などの主題はほとんど描かれず、印刷の方法も多く資料で木版が選択されている。また、同資料に描かれた女性は若輩の少女を除きいずれも束髪ではなく日本髪で描かれ、着物の着こなしも裾丈を長くひきずる古風なものである。

この背景として、当時の高等女学校の教育課程があげられる。明治32年の「高等女学校ノ学科及其程度ニ関スル規則」によれば、明治中後期の高等女学校で教えられていた科目は、「修身、国語、外国語、歴史、地理、数学、理科、家事、裁縫、習字、図画、音楽、体操トス又随意科目トシテ教育、漢文、手芸ノ一科目若クハ数科目ヲ加フルコトヲ得 外国語ハ之ヲ欠キ又生徒ノ志望ニ依リ之ヲ課セサルコトヲ得」とあり、これは趣味・教養、家事・生業に分類した項目との重複がみられる。規則では「茶の湯」「生け花」についての記述はないものの、跡見女学校の例に見られるように、一部の女学校では箏曲、插花、点茶などの諸芸が正式科目として採用されていた<sup>17</sup>。

久保内は、近代女子教育の構成について整理した研究論文において、高等女学校の教育内容を(1)「いわゆるアカデミックな学科目」(2)「生活に関する学習」(3)「徳育」の3つに分類し、(1)は知育、(2)と(3)は徳育であると述べている<sup>18</sup>。同論文では「生活に関する科目」の例として「家事、裁縫、実業」が、「徳育」の例として「女性に必要とされる教養や「しつけ」と、学校教育における修身」が挙げられているが、「高等女学校ノ学科及其程度ニ関スル規則」には修身において女礼式を扱うことを定めた規定があり、「教育ニ関スル勅語ノ旨趣ニ基キテ人道実践ノ方法ヲ授ケ兼ネテ作法ヲ授ク修身ヲ授クルニハ躬行実践ヲ旨トシ務メテ貞淑ノ徳ヲ養ヒ起居言語其宜キニ適セシメンコトヲ要ス」と記述されている。以上から、明治女礼式浮世絵は、「女礼式」という題を冠しながらも、礼法の教授に留まらず女子中等教育機関で教えられていた徳育に関する主題を幅広く扱い、当時理想とされていた

<sup>17</sup>加藤晴美. 女子教育と茶道：明治期の展開. プール学院大学研究紀要. 2007, 47, p.266-272.

<sup>18</sup>久保内加菜. 女子教育の構成に関する歴史研究（その1）. 山脇学園短期大学紀要. 2004, 42, p.1-15.

婦徳を視覚的に女子に伝えていたと考えられる。

明治 20 年代から 30 年代にかけては、鹿鳴館時代の欧化主義への反動から国粹保存主義が流行していたが、こうした風潮は女子教育にも及び、同時代の女子のお転婆や生意気が非難されるようになっていた。薄井は、「こうした世論の動向を背景として、明治 20 年代半ば以降、(中略)復古傾向が目立ってくる一方で、「女礼式」教育に新たな動きが出てくる。その一つが学校教育における男女の差別化であり、もう一つが礼法教育としての伝統芸能の再評価である」と述べ、諸芸が「女礼式を補完する役割を果たすと考えられた」として、女礼式と諸芸の融合についても考察を加えている<sup>19</sup>。前述の「貞淑ノ徳ヲ養ヒ起居言語其宜キニ適セシメンコトヲ要ス」という文言に現れているように、明治中期以降の女子教育は近代的な人格養成よりもむしろ貞淑で従順な良妻賢母を育てることを志向していたが、この教育観は本項のはじめに述べたような前近代的な女性の描かれ方によって明治女礼式浮世絵にも表れている。

明治期は高等女学校教育の黎明期にあたり、女子の中等教育機関への進学率は明治 28 年で 1.7%と非常に低かったが、その後大正期にかけて徐々に向上し、大正 9 年には 10%を超える<sup>20</sup>。また、中等教育機関における女子の在学者数の該当年齢人口に占める比率を見ても、明治 28 年ではわずか 0.2%であったが、10 年後の明治 38 年には約 8 倍の 1.7%、さらに 10 年後の大正 4 年には約 7 倍の 12.6%となっており、高等女学校における教育が都市部に住む一部の上流階級の女子から一般家庭の女子へと広がっていく大衆化の過渡期にあったことが伺える。また、高等女学校における女子教育観が当時の社会で理想とされていた女性像に即した良妻賢母主義に定まったことを受け、明治初期には「ネガティブにとらえられることが多かった」女学生の存在が様々なイメージを伴って社会に受け入れられるようになっていく<sup>21</sup>。こうした背景のなかで、明治女礼式浮世絵は高等女学校で教授されていた徳育の内容を広く取り上げ、一般家庭の女子に伝える役割を果たしていたのではないかと考えられる。

## 7. 終わりに

本研究では、明治女礼式浮世絵の特徴を明らかにするという目的のもと、資料形態別に書誌事項の調査と主題の分類・集計を行って資料を整理した。また、絵双六資料群では構成図の作成を、画帖資料群及び続絵資料群においては本文の翻刻と本文と図版の比較を行い、それぞれの資料で主題がどのように表現されていたのかに着目した調査を行った。さらに、明治女礼式浮世絵で描かれた主題について、「小学女礼式第一」で取り上げられていた主題との関連を調査し、諸芸をはじめとする明治女礼式浮世絵で描かれていたものの「小

<sup>19</sup>薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(1). 北海道医療大学看護福祉学部紀要. Vol. 10, 2003, p.57-65.

<sup>20</sup>文部省調査局編. 日本の成長と教育：教育の展開と経済の発達. 帝国地方行政学会, 1962.

<sup>21</sup>平石典子. 「女学生神話」の誕生を巡って. 人文論叢 (三重大学). Vol18, 2001, p.33-50.

「小学女礼式第一」では扱われなかった主題や、それとは逆に小学女礼式では取り上げられていたが明治女礼式浮世絵では描かれなかった主題についても、若干の考察を加えた。

調査の結果、明治女礼式浮世絵は「小学女礼式第一」の影響を少なからず受けていたということが明らかになった。小笠原清務らが著した「小学女礼式第一」は後の出版物に影響を与えており、本研究の調査対象資料もその例外ではなかったと言える。しかし、一方では女子にとってより身近で実用的な項目のみが採用されるなどの工夫が見られ、オリジナルの項目も少なくなかった。特に、「小学女礼式第一」中で全く取り上げられていなかった茶の湯や生け花をはじめとする趣味・教養に関する項目が多く配置されていたことは、注目すべき点であろう。

この背景として、当時の高等女学校で扱われていた教育内容を挙げ、先行研究や当時の法令を踏まえた考察を行った。前述の薄井の指摘にあるように、明治 20 年代から 30 年代にかけて国粹保存主義が高まり伝統芸能が流行するとともに諸芸と女礼式の融合が進行していたが、明治女礼式浮世絵ではこれらに裁縫をはじめとする生活に関する学習を加えた、徳育を扱った主題が幅広く取りあげられており、当時理想とされていた婦徳を視覚的に女子に伝えていたことが推察された。

しかし、本研究では資料形態による特徴を得ることに着目して研究を行ったため、横断的な図版の分析は十分には行わなかった。また、調査対象資料として綿抜研究室、筑波大学、国立国会図書館の所蔵する絵双六資料群、画帖資料群、続絵資料群を取り上げたが、画像の利用に関して著作権の権利処理が必要であった静岡県立図書館所蔵資料をはじめとする他館の所蔵資料や、資料数が十分に揃わなかったために分析の対象としなかった一枚物など、絵双六、画帖、続絵以外の資料形態の資料群については調査対象としなかった。

これらの課題を解決する方法としては、以下のものが考えられる。

- ・今回作成した資料形態別のデータベースとは別に、すべての調査対象資料の書誌と主題の分類項目の横断検索が可能なデータベースを新たに作成する。
- ・外部所蔵資料、絵双六、画帖、続絵以外の資料形態の資料群を対象とした資料研究を行う。

今後は、対象範囲を広げて外部所蔵のビジュアル主体メディアを調査するとともに、資料形態に関わらず図版の主題ごとに横断的な検索を行えるデータベースの整備を進め、本研究の結果を補強したい。

## 謝辞

本論文は、筑波大学図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻の修士論文です。本論文の執筆にあたり、終始温かくご指導ご鞭撻を頂きました綿抜豊昭教授、そして、特に画像データベースの構成に関して多くの助言をくださった松本浩一教授に、心より感謝致します。

また、本研究では、筑波大学附属図書館、国立国会図書館のデジタルアーカイブで公開されている画像データを利用規約の範囲で使用させて頂きました。末筆ながらお礼を申し上げます。

最後に、本研究について有益な議論をともにして下さいました綿抜研究室同期ゼミ生の皆様、逸村研究室夏ゼミ合宿参加者の皆様にも、深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 文献リスト

- ・ 陶智子. 「小学女礼式」について. 富山短期大学紀要. vol. 42, 2007, p. 1-10.
- ・ 薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(1). 北海道医療大学看護福祉学部紀要. Vol. 10, 2003, p. 57-65.
- ・ 薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(2). 北海道医療大学看護福祉学部紀要. vol. 11, 2004, p.51-58.
- ・ 薄井明. <日本近代礼法>の形成過程(3). 北海道医療大学看護福祉学部紀要. vol. 12, 2005, p.1-9.
- ・ 山本正勝. 絵すごろく：生い立ちと魅力. 芸艸堂, 2004, 288p.
- ・ 榊田静代. 絵双六：その起源と庶民文化. 京阪奈情報教育出版, 2014, 370p.
- ・ 岩城紀子. 出世双六の変化—幕末から明治へ—. 風俗. Vol. 32, vol. 3, p62-87.
- ・ 加藤康子. 幕末・明治の絵双六-研究の意義と方法. 梅花女子大学文学部紀要児童文学編. vol. 31, 1997, p.1-38.
- ・ 井上素子. 楊周延《女禮式図》に見る近代女子教育観. 筑波大学附属図書館所蔵明治期女禮式浮世絵調査報告論文集. 2013, p.7-15.
- ・ 小出真理子. 明治女禮式浮世絵における服飾表現について. 筑波大学附属図書館所蔵明治期女禮式浮世絵調査報告論文集. 2013, p.17-25.
- ・ 井上宗雄ほか編. 日本古典籍書誌学辞典. 岩波書店, 1999. 626 p.
- ・ 江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 1 報): 小学校における礼法の成立過程. 日本家庭科教育学会誌. 1983, 26(2), p.13-17.
- ・ 江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 2 報): 小学校用礼法教科書の内容の推移. 日本家庭科教育学会誌. 1983, 26(2), p.18-22.
- ・ 江口敦子, 住田昌二. 礼法教育の研究(第 3 報): 婦人向け教養書における礼法項目の推移. 日本家庭科教育学会誌. 1985, 28(1), p.1-6.
- ・ 呑海沙織. 近代礼法書にみる図書館のマナー. 図書館情報メディア研究第 9 巻 1 号, p.77-88, 2011.
- ・ 呑海沙織, 綿抜豊昭. 近代における図書館に関するマナーの受容：礼法教育からのアプローチ日本図書館情報学会誌. 2012, 58(2), p.69-82.
- ・ 呑海沙織. 近代礼法書における図書館マナーと甫守謹吾. 情報学 10(2), p1-11, 2013
- ・ 岩切信一郎. 明治版画史. 吉川弘文館, 2009, 378p.
- ・ 加藤晴美. 女子教育と茶道：明治期の展開. プール学院大学研究紀要. 2007, Vol.47, p. 266-272.
- ・ 久保内加菜. 女子教育の構成に関する歴史研究(その 1). 山脇学園短期大学紀要. 2004, 42, p.1-15.
- ・ 文部省調査局編. 日本の成長と教育：教育の展開と経済の発達. 帝国地方行政学会, 1962, 261p.

- ・ 平石典子. 「女学生神話」の誕生を巡って. 人文論叢 (三重大学) . 2001, Vol.18, p.33-50